

## 第2章 現況と課題

## 2-1 現況

### (1) 柴田町の位置・地勢等

#### ① 位置・地勢

柴田町は、宮城県の中南部内陸に位置し、政令指定都市「仙台市」から南へ25km、福島県と隣接する白石市との間に位置しています。町の総面積は54.03平方キロメートルです。阿武隈川、白石川の沖積層により平坦地を形成し、奥羽山脈系統の丘陵で隣接市町と接しています。周囲は標高200m前後の山々に囲まれた盆地です。町の東南端を遠く那須連峰に源流をもつ阿武隈川が、中央を蔵王に端を発する白石川が流れ、町を二分しています。

#### ■位置図

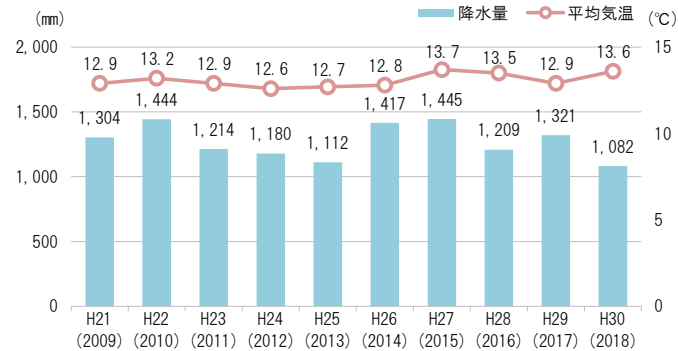


## ② 気候

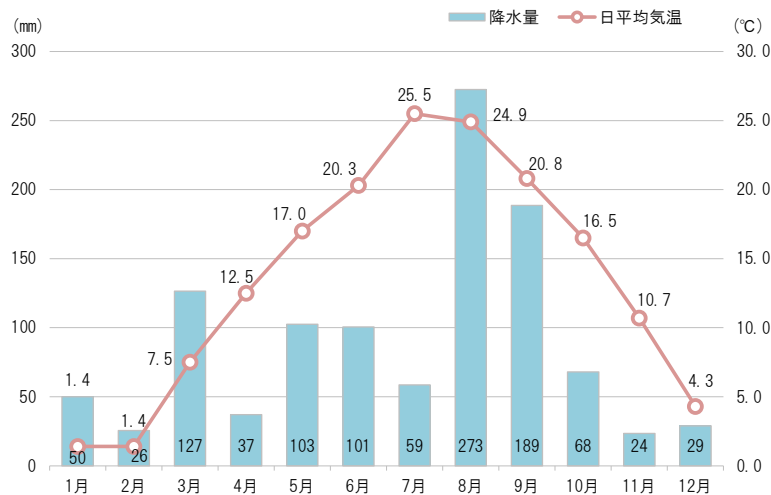
柴田町は内陸部に位置しているため、海洋性の気温が大きく影響し、気候は温暖で、厳寒期でも月平均気温は氷点下になりません。酷暑期でも平均気温は 21℃程度です。東北地方にありながら雪もほとんど降らず、四季を通じて過ごしやすい地域です。町を囲む丘陵は蔵王山から吹き降ろす北西風を遮り、また海からの風の影響を和らげています。

### ■気象概要

＜年間平均気温と年間降水量＞



＜日平均気温と降水量＞



資料：仙台管区気象台観測値

## (2) 人口・世帯数

### ① 人口の推移

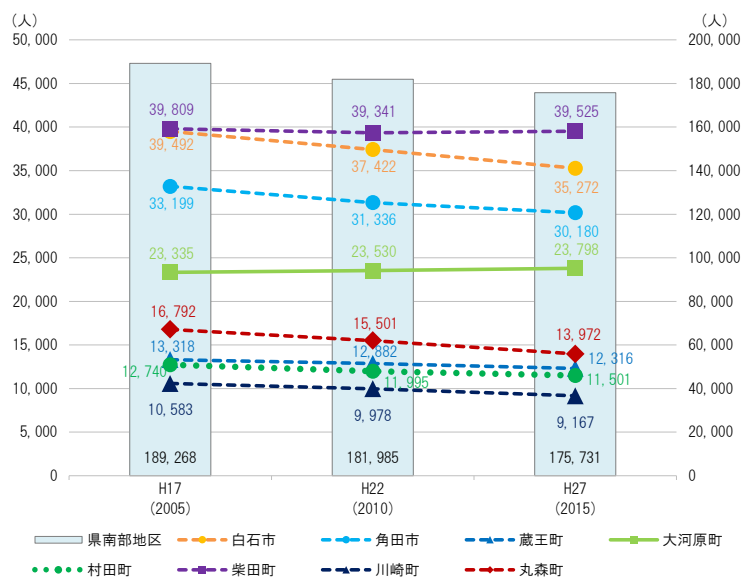
柴田町の人口は県南地区の人口が減少する中であって、横ばいを維持しています。

柴田町の人口を自然増減、社会増減でみると、自然増減は一貫して減少傾向にあります。社会増減は増加と減少を繰り返しています。柴田町の人口が横ばいを維持しているのは、社会増減の転入超過によるものでしたが、近年は転出超過が目立っています。

転入転出の状況を見ると、柴田町へは県南地区の市町から転入超過となっていますが、それを上回る人口が仙台市へ転出超過となっています。

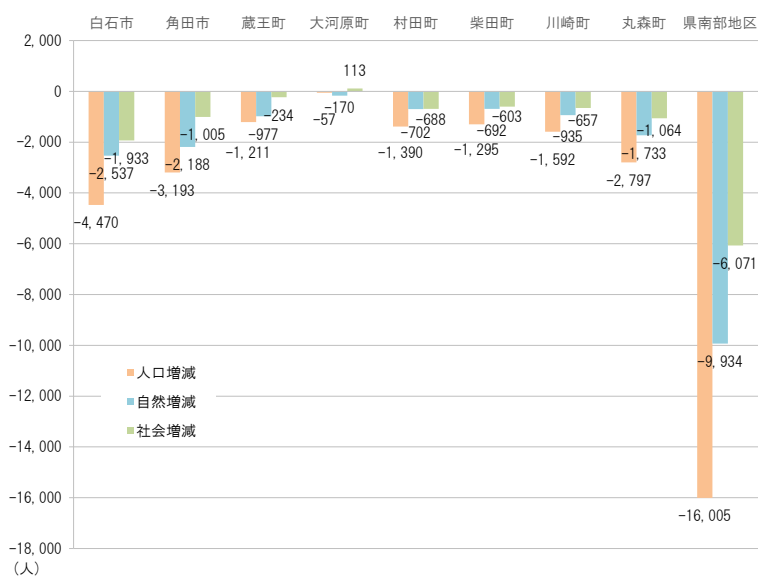
柴田町の人口は減少傾向が続くものの世帯数は増加傾向となっており、世帯当たり人員の縮小がみられます。

■ 県南地区の人口の動向



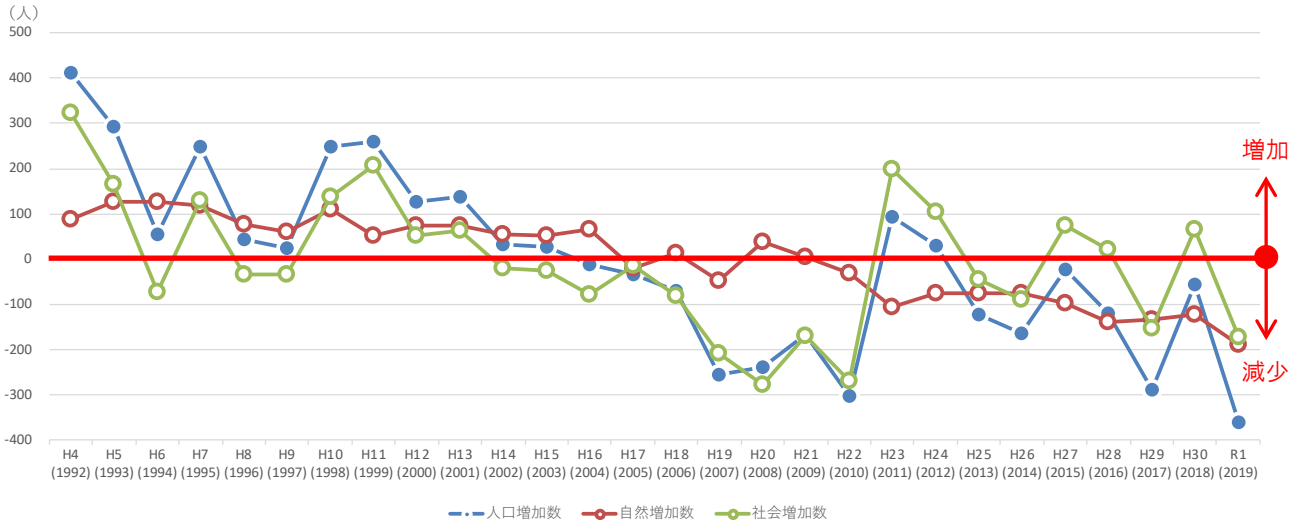
資料：国勢調査

■ 県南地区の人口増減



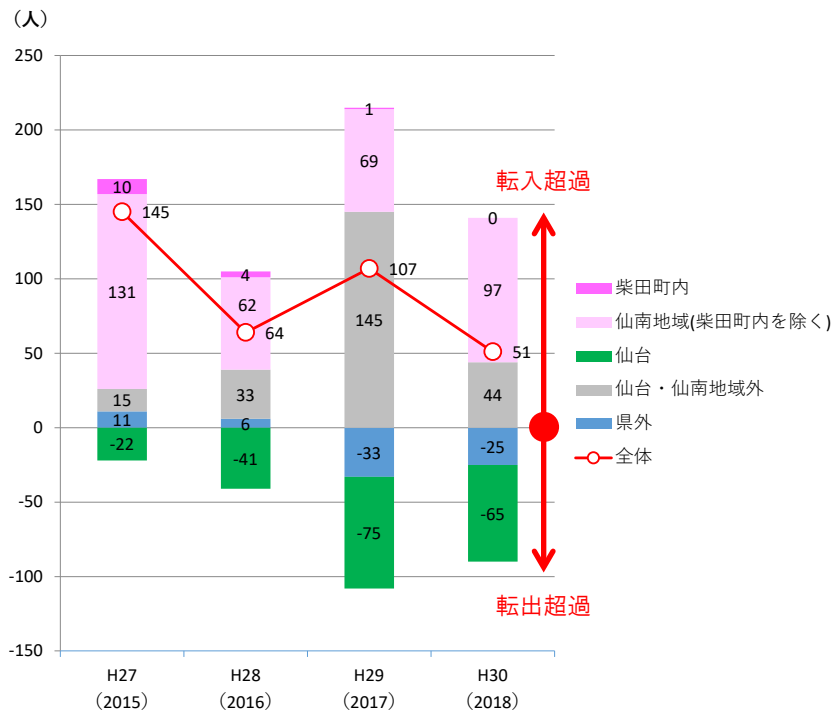
資料：国勢調査

### ■自然増減・社会増減の推移



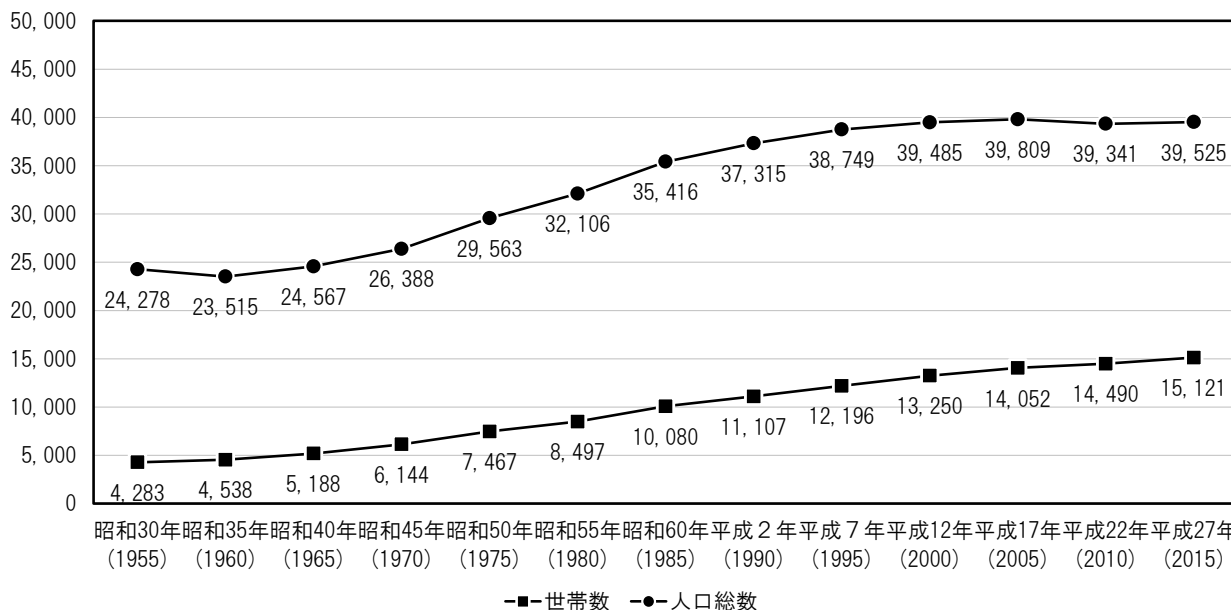
資料：柴田町資料

### ■転入・転出の状況



資料：柴田町資料

### ■人口及び世帯数の推移



昭和30年昭和35年昭和40年昭和45年昭和50年昭和55年昭和60年平成2年平成7年平成12年平成17年平成22年平成27年  
(1955) (1960) (1965) (1970) (1975) (1980) (1985) (1990) (1995) (2000) (2005) (2010) (2015)

■-世帯数 ●-人口総数

資料：国勢調査

### ■1世帯当たり人員の推移

表 1 世帯当たりの人員の推移

市町村	区域	平成17年	平成22年	平成27年
白石市	行政区域	3.1	3.0	2.8
	都市計画区域	3.0	2.9	2.7
	用途地域	2.8	2.7	2.6
	用途地域外	3.5	3.3	3.1
角田市	行政区域	3.2	3.1	2.9
	都市計画区域	3.0	2.9	2.7
	用途地域	2.8	2.8	2.7
	用途地域外	3.4	3.2	2.9
柴田町	行政区域	2.8	2.7	2.6
	都市計画区域	2.8	2.7	2.6
	用途地域	2.7	2.6	2.5
	用途地域外	3.4	3.2	3.1
大河原町	行政区域	2.8	2.7	2.6
	都市計画区域	2.8	2.7	2.6
	用途地域	2.8	2.7	2.6
	用途地域外	3.7	3.1	3.0
村田町	行政区域	3.5	3.3	3.1
	都市計画区域	3.5	3.3	3.1
	用途地域	3.2	3.2	2.9
	用途地域外	3.8	3.4	3.1

表 1 世帯当たりの人員の推移

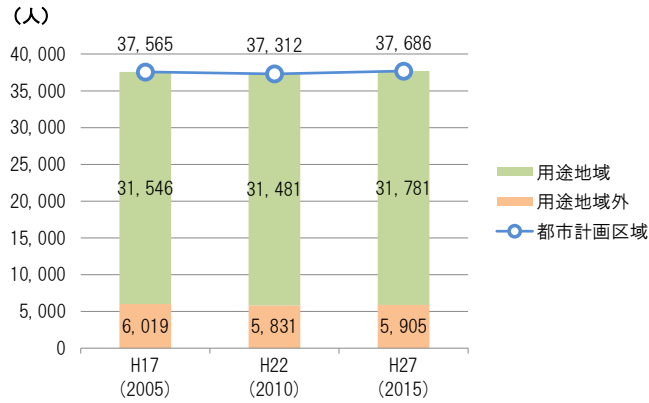
市町村	区域	平成17年	平成22年	平成27年
川崎町	行政区域	3.6	3.5	3.2
	都市計画区域	3.6	3.4	3.2
	用途地域	3.1	3.0	2.8
	用途地域外	3.6	3.5	3.2
蔵王町	行政区域	3.5	3.3	3.1
	都市計画区域	3.4	3.2	3.1
	用途地域	-	-	-
	用途地域外	3.4	3.2	3.1
丸森町	行政区域	3.5	3.3	3.1
	都市計画区域	3.4	3.4	3.2
	用途地域	-	-	-
	用途地域外	3.4	3.4	3.2
都市圏全体	行政区域	3.1	3.0	2.8
	都市計画区域	3.0	2.9	2.8
	用途地域	2.8	2.7	2.6
	用途地域外	3.5	3.3	3.1

資料：国勢調査

## ② 人口の分布

本町の人口 39,535 人の内、都市計画区域内に 95% (37,686 人) が居住しています。  
都市計画区域内の人口に対して、用途地域内に 31,781 人 (84%) が居住しています。

### ■都市計画区域内人口の推移



資料：国勢調査

### ■行政区域、都市計画区域内人口の推移

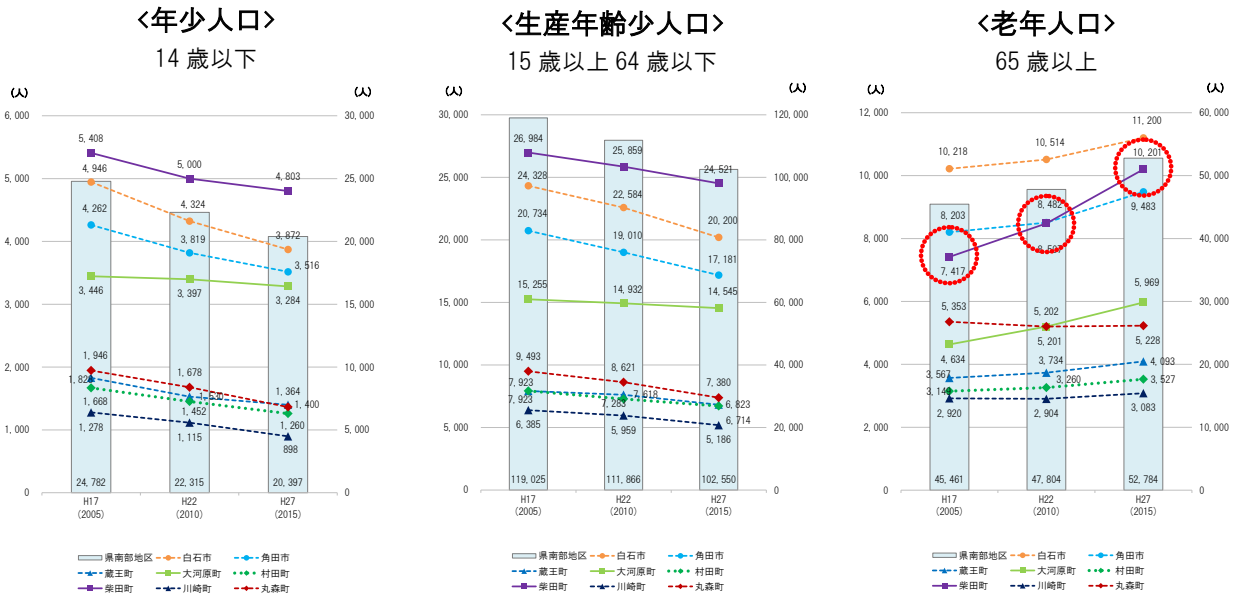
区域	平成17年 人口 (人)	平成22年 人口 (人)	平成27年 人口 (人)	平成17～22年の増減		平成22～27年の増減	
				増加数 (人)	増加率 (%)	増加数 (人)	増加率 (%)
				行政区域	39,809	39,341	39,525
都市計画区域	37,565	37,312	37,686	-253	99%	374	101%
用途地域	31,546	31,481	31,781	-65	100%	300	101%
用途地域外	6,019	5,831	5,905	-188	97%	74	101%

資料：国勢調査

### ③ 年齢別人口

柴田町の高齢化率の状況は、県南地区では低く 25.8% となっています。しかしながら、老年人口の増加は他の市町と比べて顕著となっており、高齢化率が急速に進んでいる状況がみられます。

#### ■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査



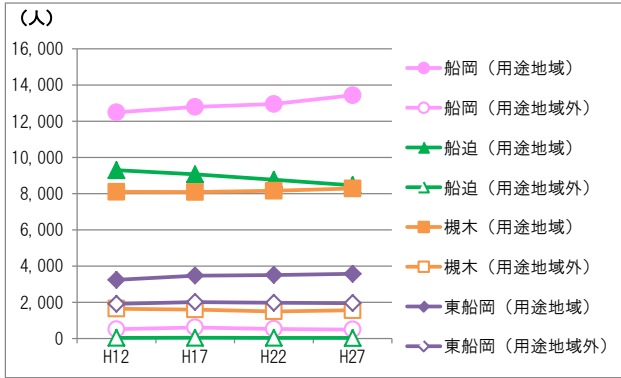
#### ④ 地区別人口・世帯の推移

人口は、船迫地域で減少が進んでいます。その他の地域では、増加となっています。

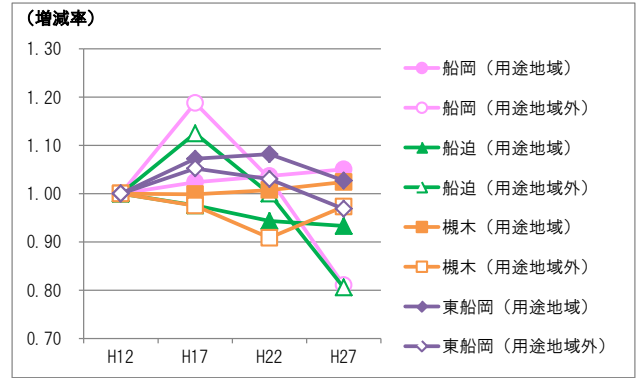
世帯数は増加傾向が見られ、人口減少が進んでいる船迫地域でも世帯数は増加となっています。

世帯数の増加傾向は、平成 22 年以降で鈍化しています。

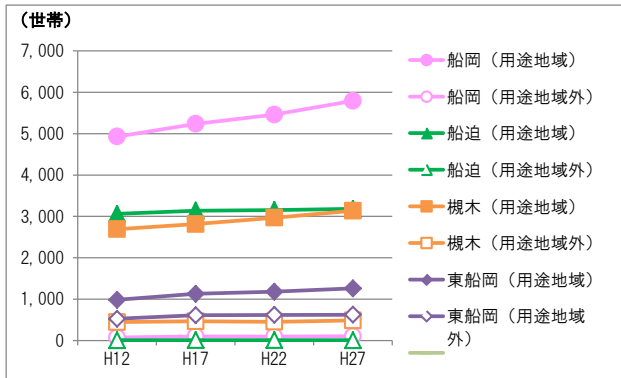
■地域別人口の推移 (H12~H27)



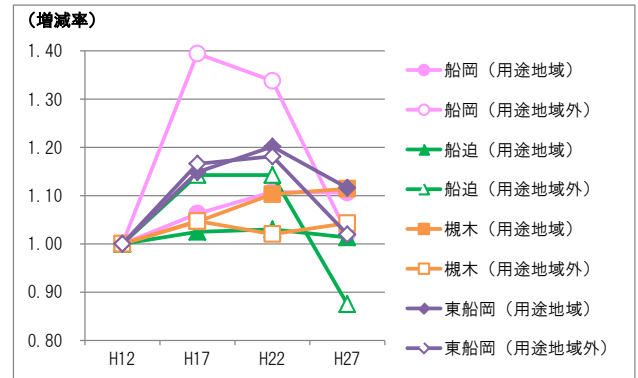
■H12 を 1.00 とした場合の指標値の推移



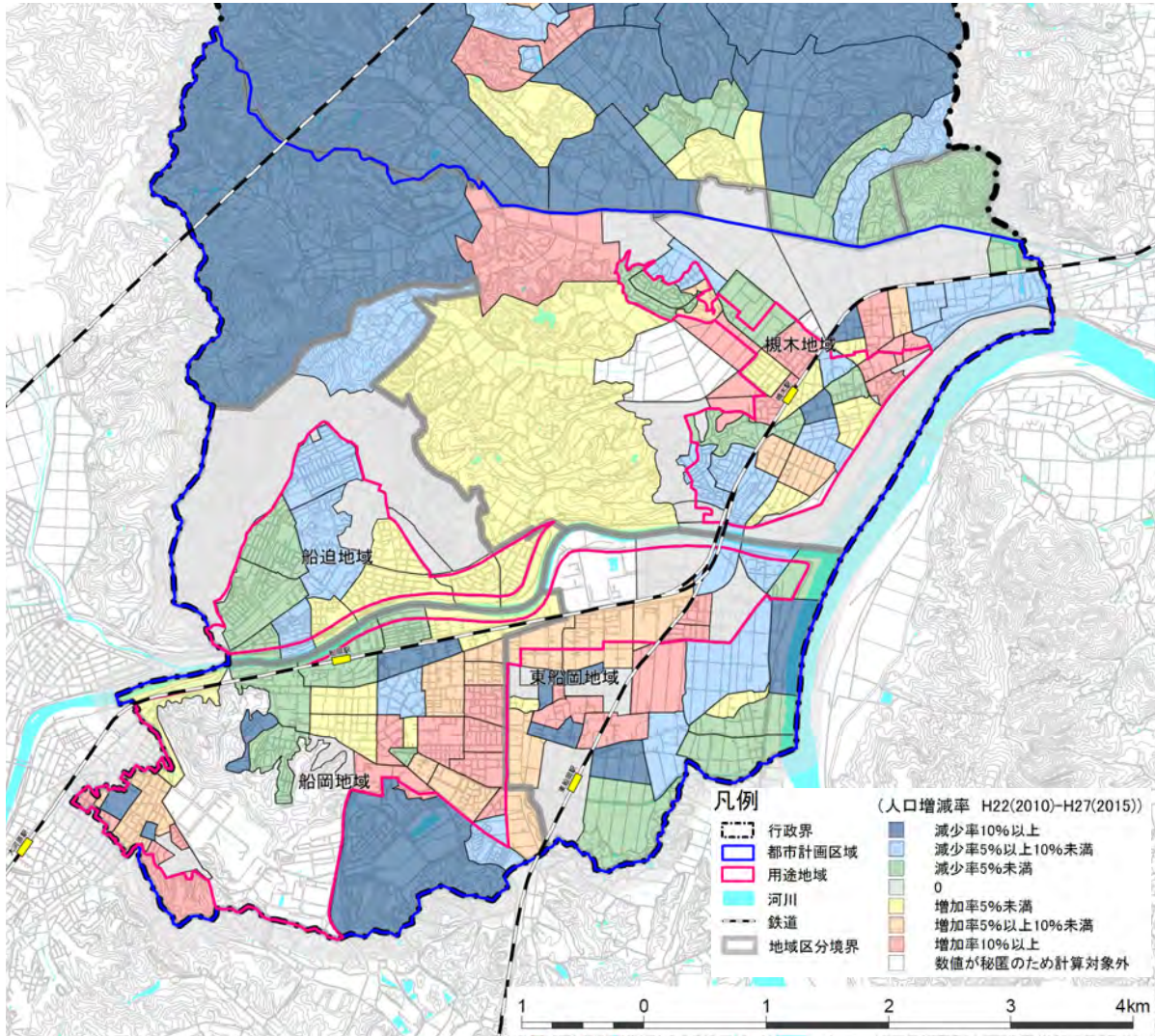
■地域別世帯数の推移 (H12~H27)



■H12 を 1.00 とした場合の指標値の推移

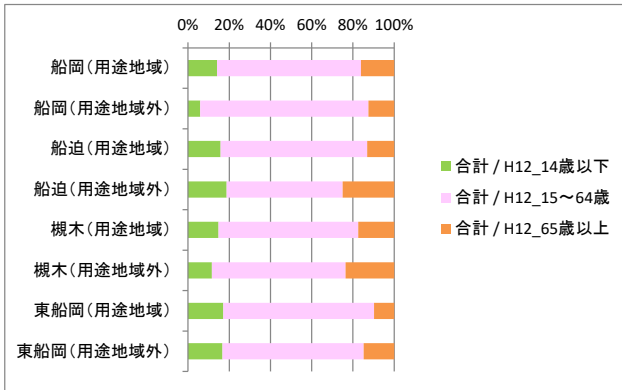


■小ゾーン別人口増減図 (H22~H27)

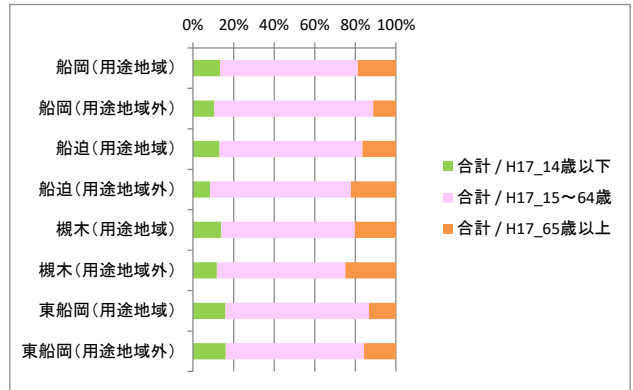


## ■年齢3区分別人口割合

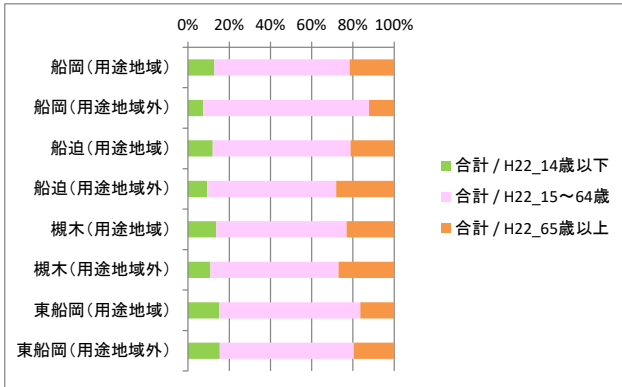
【H12】



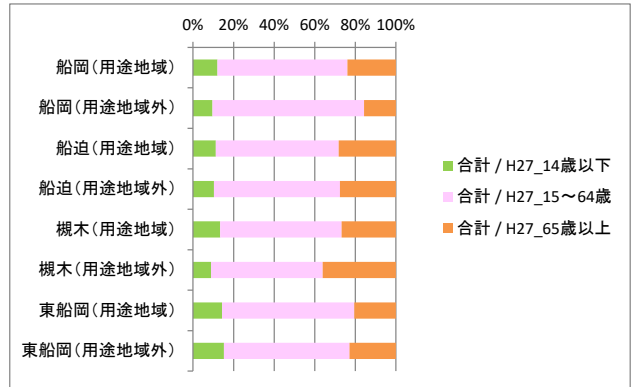
【H17】



【H22】



【H27】





## ■小ゾーン別人口高齢者割合図

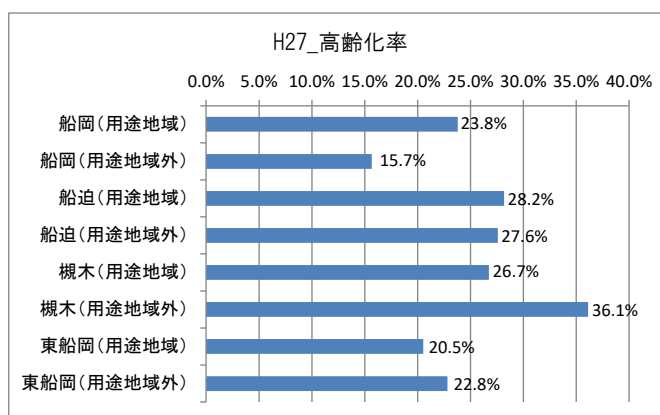
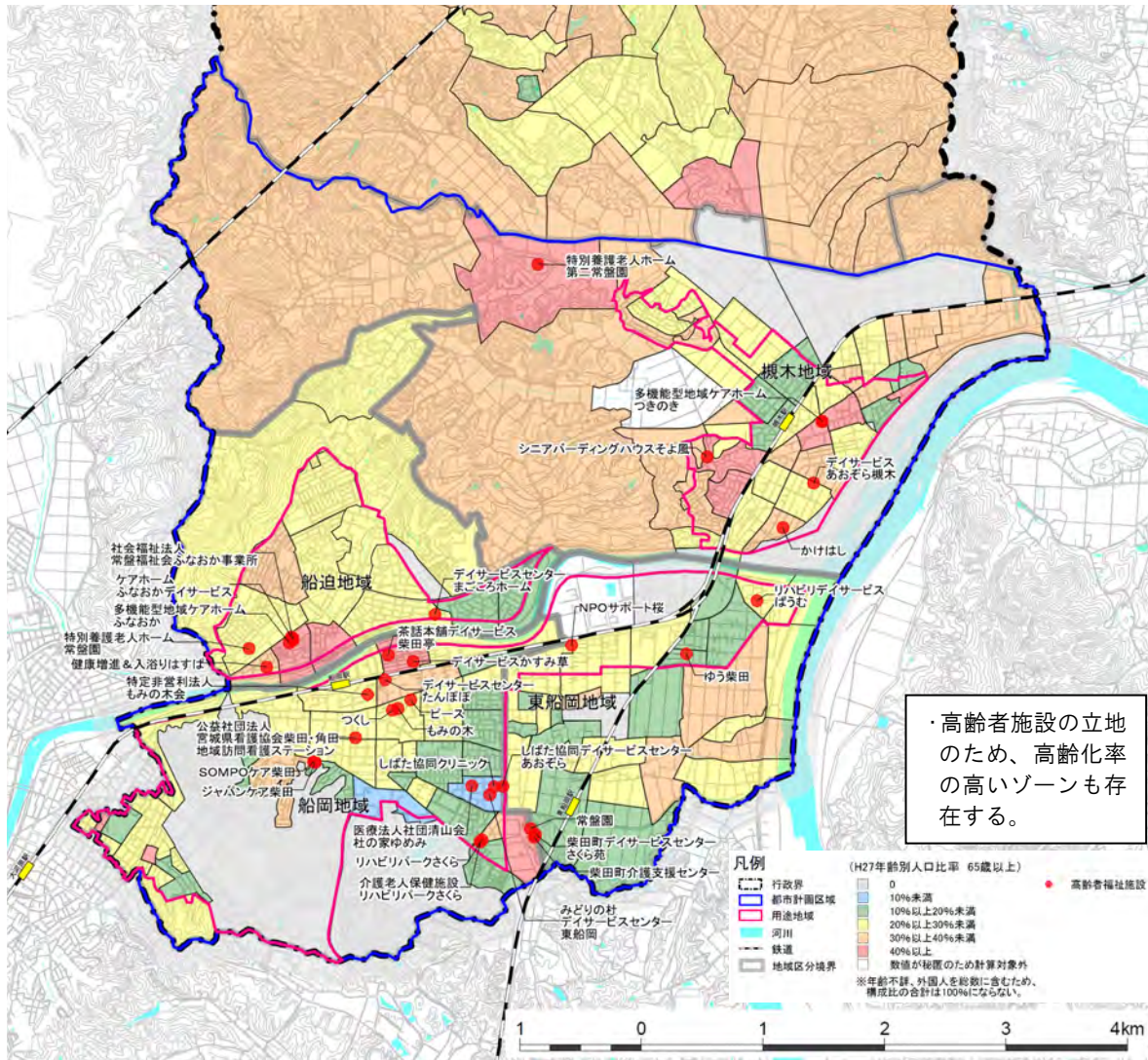
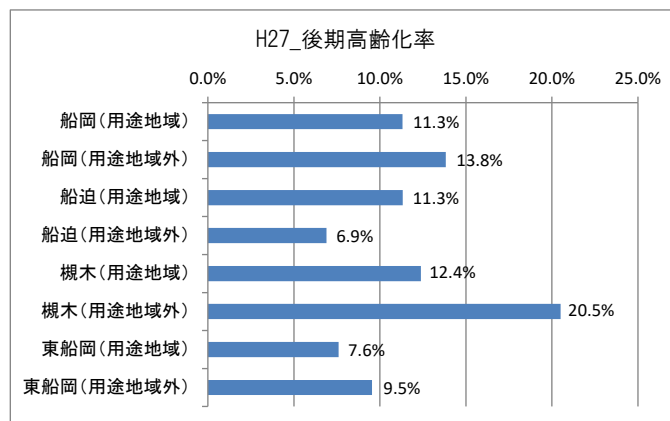
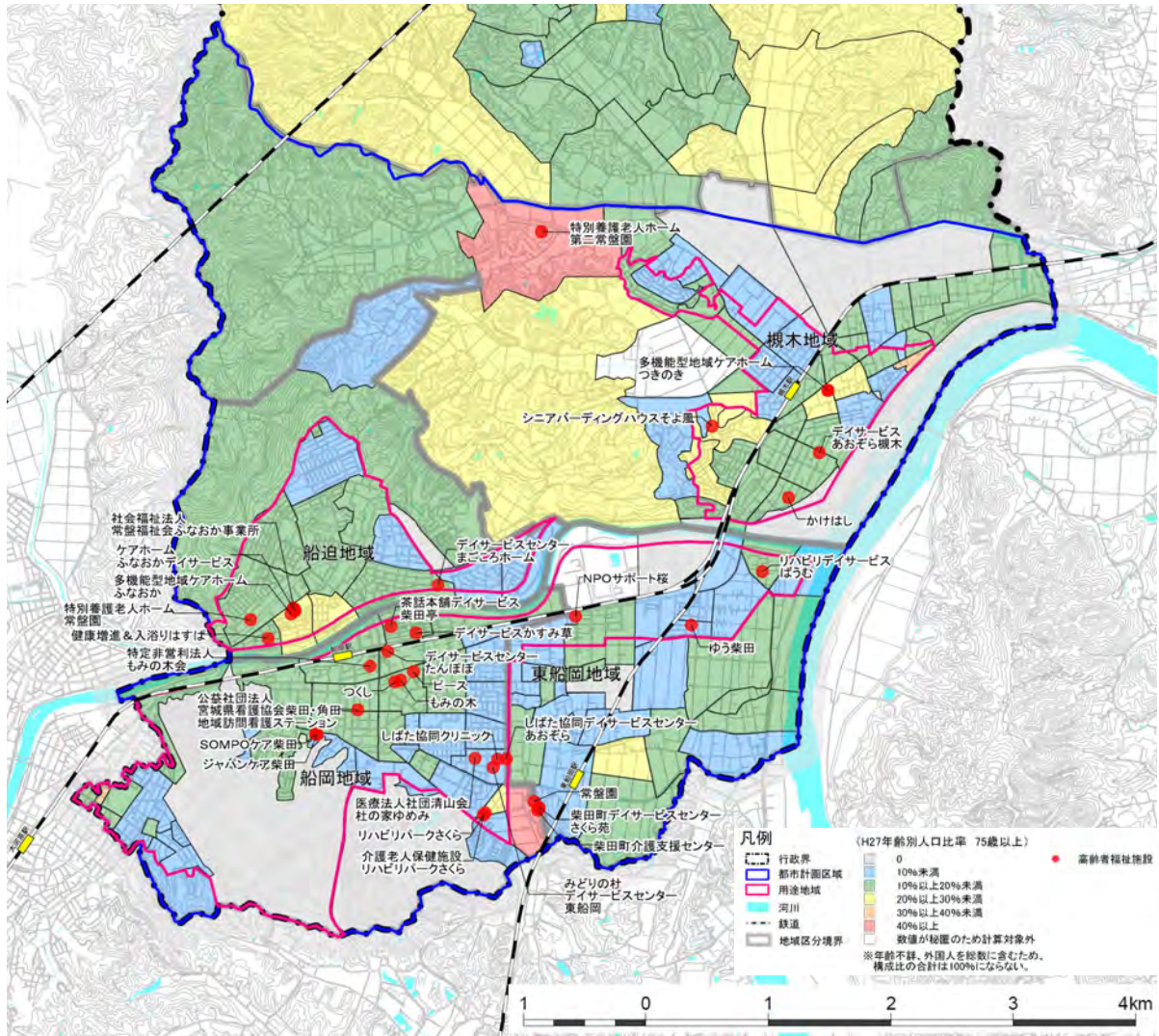




図 小ゾーン別人口後期高齢者割合図



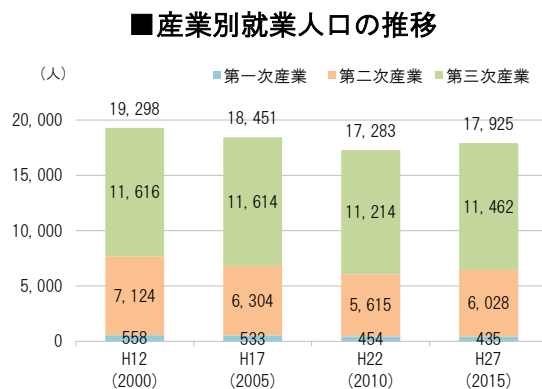
### (3) 産業・経済・観光

#### ① 産業分類別就業人口

柴田町の総就業人口は平成12年以降について見ると減少傾向にありましたが、平成22年から平成27年で増加に転じています。

第一次産業就業人口は一貫して減少が続いています。

第二次産業と第三次産業就業人口は、平成22年までは減少傾向にありましたが、その後、増加に転じています。



資料：国勢調査

## ② 農業

農家人口は減少を続けており、平成12年以降約半数に減少しています。

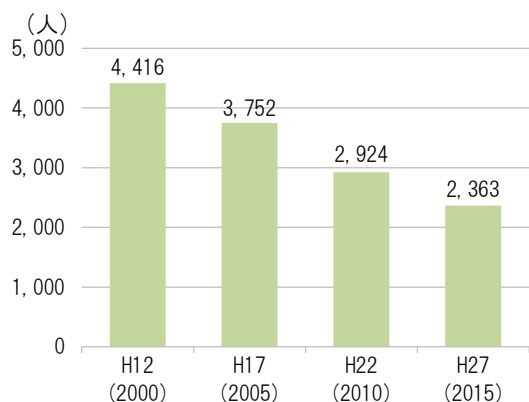
農家形態で見ると、減少しているのは兼業農家となっています。専業農家は横ばいから微増傾向がみられました。

耕地面積の構成は田が最も大きく、次いで畑となっています。

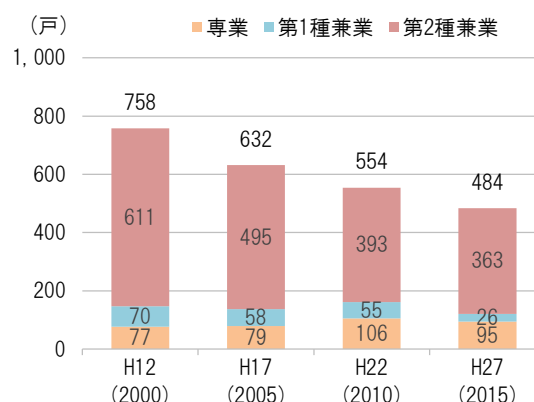
耕地面積は、平成12年から平成17年で減少しましたが、その後は横ばい傾向にあります。

耕地面積の推移と農家形態の推移は連動しており、兼業農家減少が耕地面積の減少につながっている状況がうかがえます。

### ■農家人口の推移



### ■形態別農家数の推移

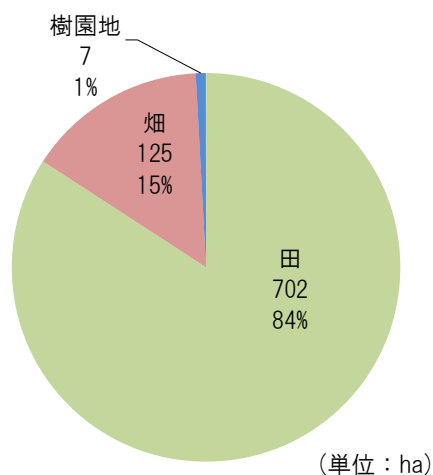


第1種兼業農家：主な所得を農業から得ている家

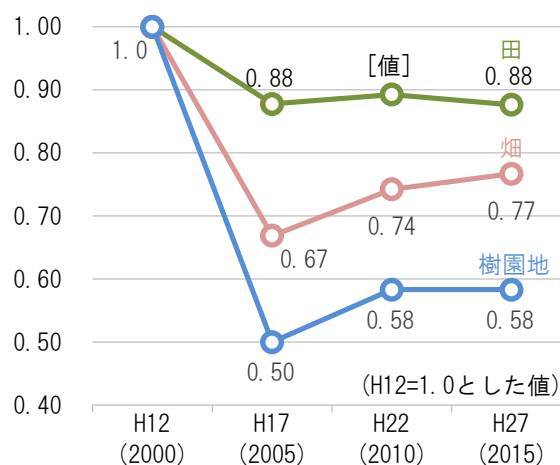
第2種兼業農家：主な所得を農業以外から得ている家

資料：農業センサス

### ■耕地面積割合 (H27)



### ■耕地面積の変化



資料：農業センサス

### ③ 商業

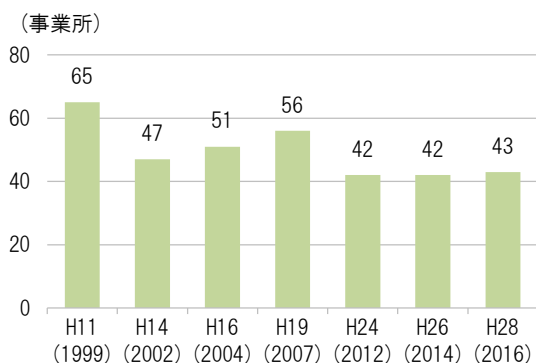
卸売業は、事業所数、従業員数、年間販売額とも、増加と減少を繰り返しています。

小売業は、事業所数と従業員数が減少傾向を示していましたが、平成 24 年以降は横ばい傾向となっています。年間販売額は 380 億円前後となっていました。平成 24 年では 268 億円に減少したものの、平成 26 年以降は 380 億円前後の販売額に戻っています。

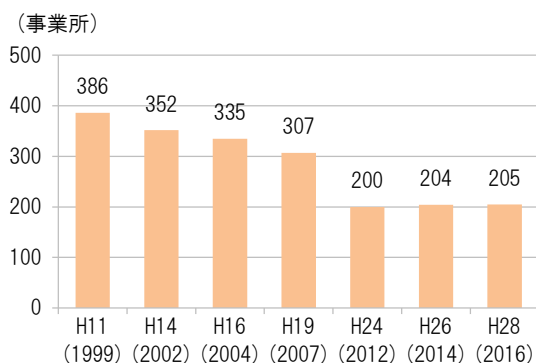
買い物流動をみると、食料品などの最寄品は自町割合が 86%と高く推移しています。

衣料品などの買回品は、自町割合が 32%から 22%へと減少しており、他市町へ依存傾向が強くなっています。

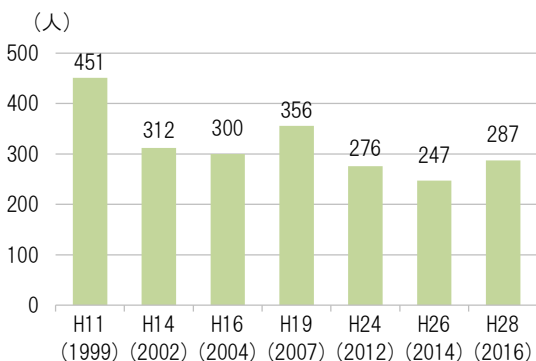
■事業所数の推移(卸売)



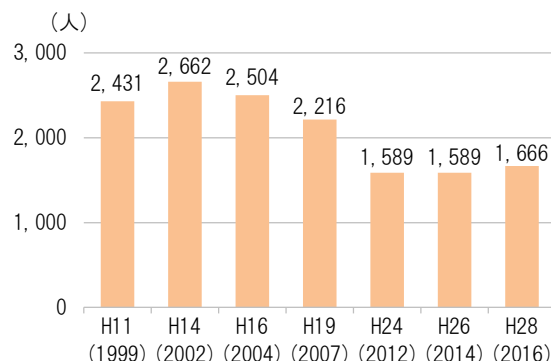
■事業所数の推移(小売)



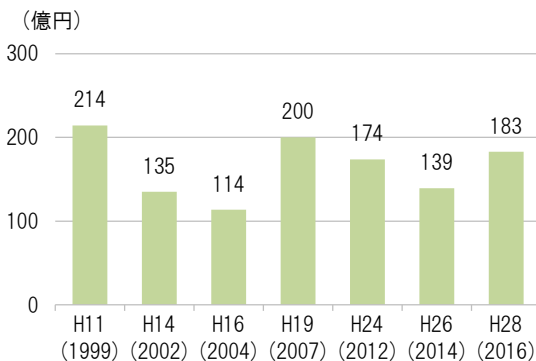
■従業員数の推移(卸売)



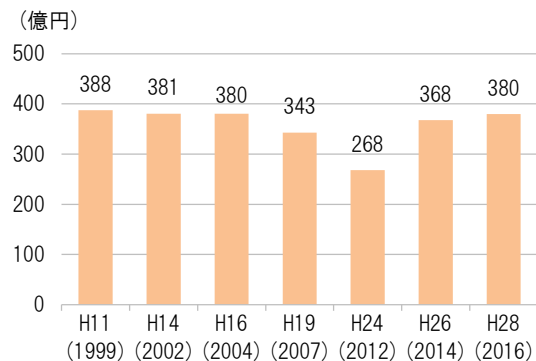
■従業員数の推移(小売)



■年間販売額の推移(卸売)



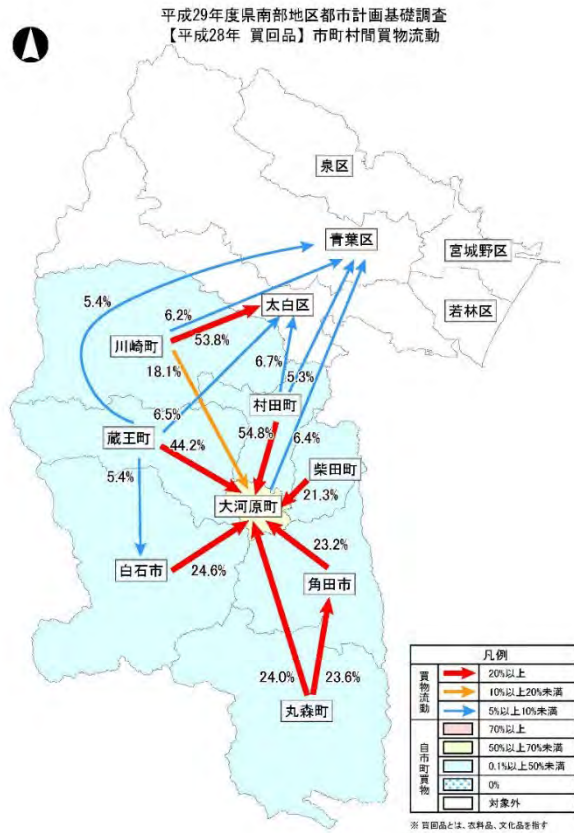
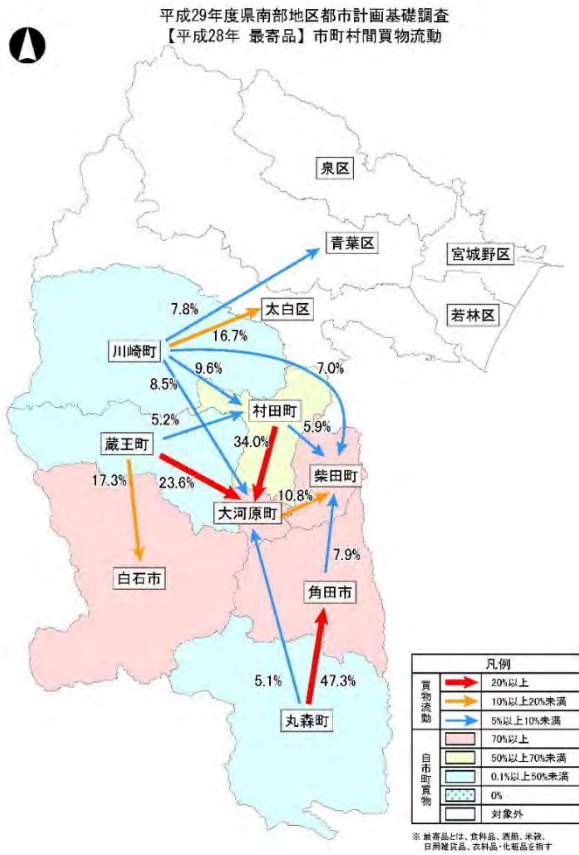
■年間販売額の推移(小売)



資料:商業統計



## 市町村間買物流動



買物流況	
最寄品買物割合	
町内で	86.1%
大河原町へ	4.5%
仙南外へは	6.9%
買回品買物割合	
町内で	22.0%
大河原町へ	21.3%
仙南外へは	44.0%

資料：県南部地区都市計画基礎調査（宮城県 H29、H30）

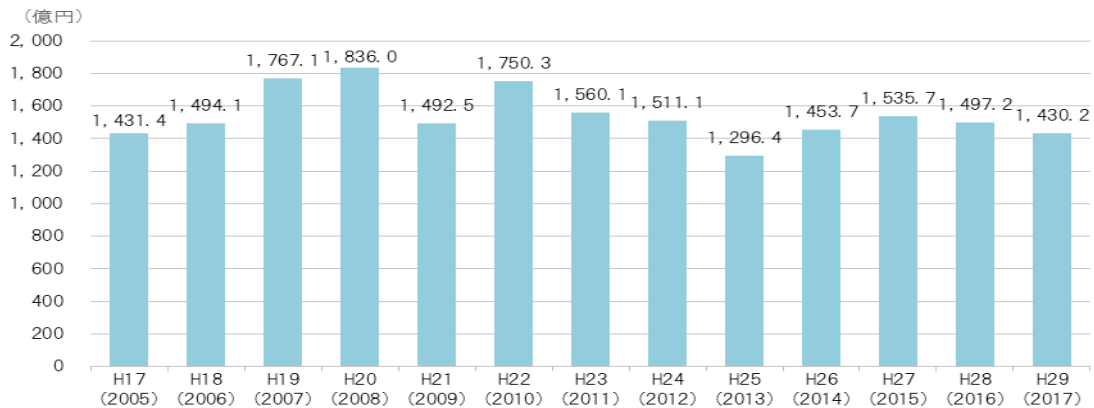
#### ④ 工業

2つの工業拠点（船岡工業団地、神明堂工業団地）があり、製造品出荷額等は平成29年が1,430億円で、仙南地域で2番目となっています。

事業所数は年々減少傾向にあり、平成17年から平成29年にかけて36%減少し46事業所となっています。

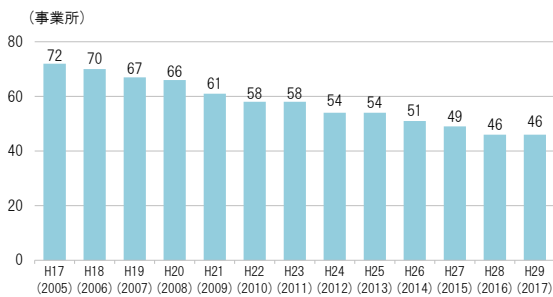
従業員数は年によって変動がありますが、平成17年から平成29年にかけて16%減少し、4,509人となっています。

■ 製造品出荷額等の推移

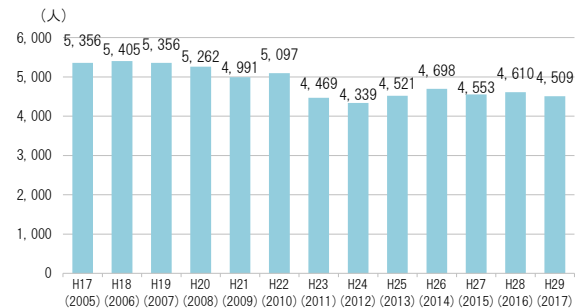


資料: 工業統計

■ 事業所数の推移



■ 従業員数の推移



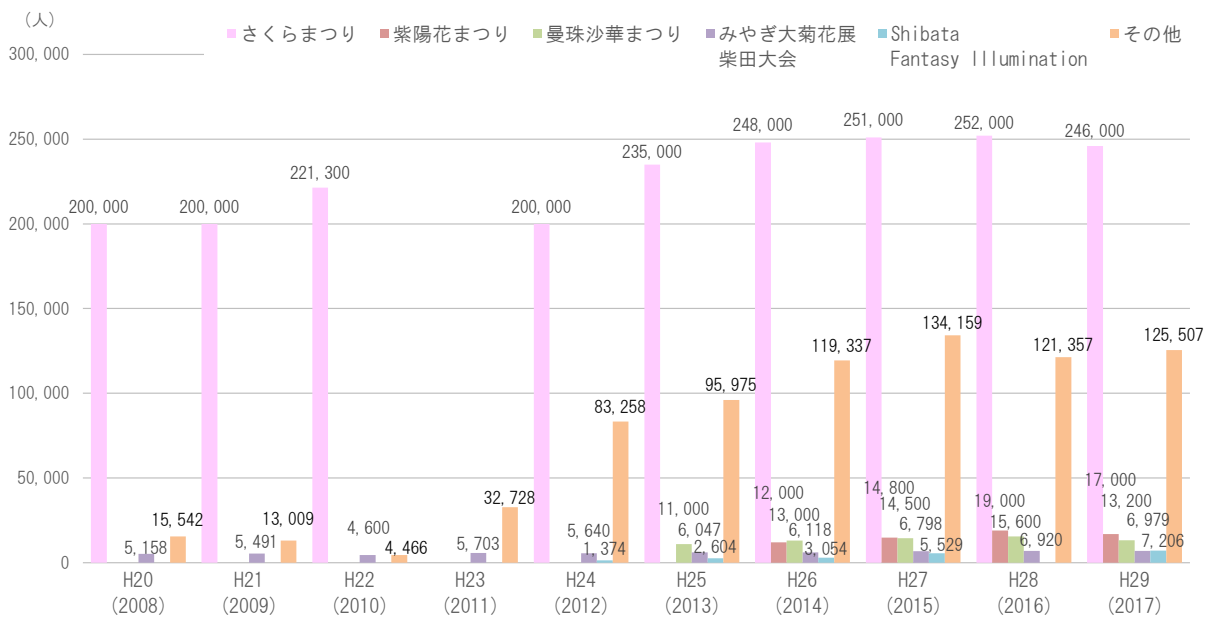
資料: 工業統計

## ⑤ 観光

柴田町への観光客は、主に船岡城址公園と太陽の村へ訪れています。船岡城址公園を訪れる人は、春の「しばた桜まつり」に集中し、この期間に20万人を超える入込数があります。平成24年からは6月下旬からの「紫陽花まつり」等にも入込数の増加がみられるようになり、平成29年度では「しばた桜まつり」以外の入込数は、約13万人となっています。

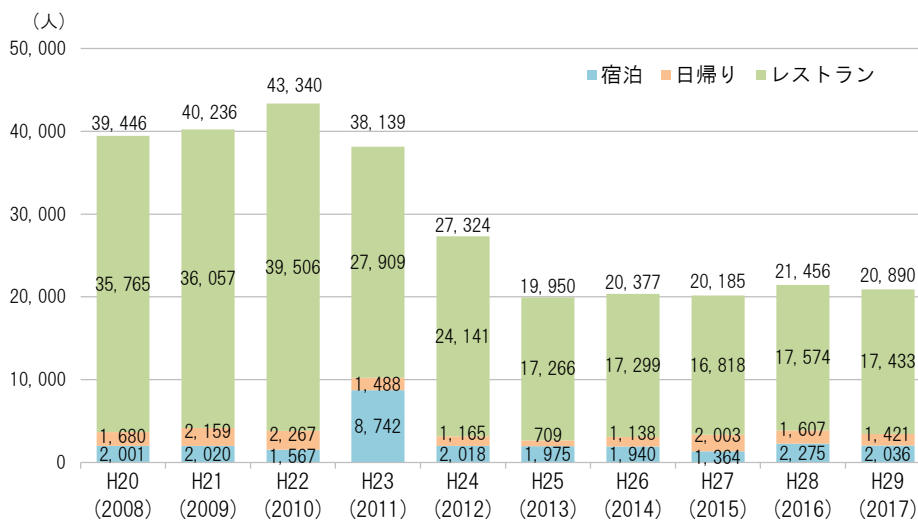
太陽の村の利用者数は、平成20年から平成23年までは4万人前後で推移していましたが、平成25年以降は2万人前後で推移しています。

### ■船岡城址公園入込客数



資料：柴田町商工観光課

### ■太陽の村利用者数



資料：柴田町農政課

## ⑥ 地価

### ア) 地価の平均変動率

宮城県の地価の平均変動率（全用途）は 1.9%と上昇を示しています。これは、仙台市及び仙台市周辺市町村での上昇が反映された結果となっています。

仙台市周辺以外の市町村では、-1.3%と下落を示しています。

仙南地域でも下落を示す中、柴田町は、0.2%の上昇を示し、土地需要の多い地域であることが示されています。

■地価の平均変動率(全用途)

	H28	H29	H30	R1
県全体	1.4	1.7	1.9	1.9
仙台市	5.9	6.8	7.5	7.8
仙台市周辺市町村	1.6	2.2	2.6	3.2
塩釜市	0.2	0.1	-0.3	-0.4
名取市	3.7	4.1	5.7	6.8
多賀城市	0.5	0.5	0.6	2.1
岩沼市	2.5	3.3	5.4	5.1
富谷市	4.5	5	4.6	4
七ヶ浜町	0	0	-0.6	-0.9
利府町	1.5	1.5	1.1	1.5
大和町	0.6	3	2.6	5.1
大衡村	-1.5	-1.8	-0.4	-0.6
仙台市周辺以外市町村	-0.9	-0.9	-1	-1.3
仙南地域	-1.0	-0.7	-0.7	-0.9
白石市	-2.2	-1.7	-1	-1
角田市	-1.8	-1.2	-0.3	-0.8
蔵王町	-2.6	-2.9	-3.3	-3.7
大河原町	2.9	2.5	2.5	1.9
村田町	-1.4	-1.2	-0.9	-0.8
柴田町	0.9	1.6	0	0.2
川崎町	-1.1	-1.5	-3.6	-3.7
丸森町	-1.9	-2.1	-2.1	-1.9

※平均変動率：継続調査地点数の変動率総和÷継続調査地点数

※表中ピンク塗りつぶしは地価が上昇した箇所、ブルー塗りつぶしは下落した箇所

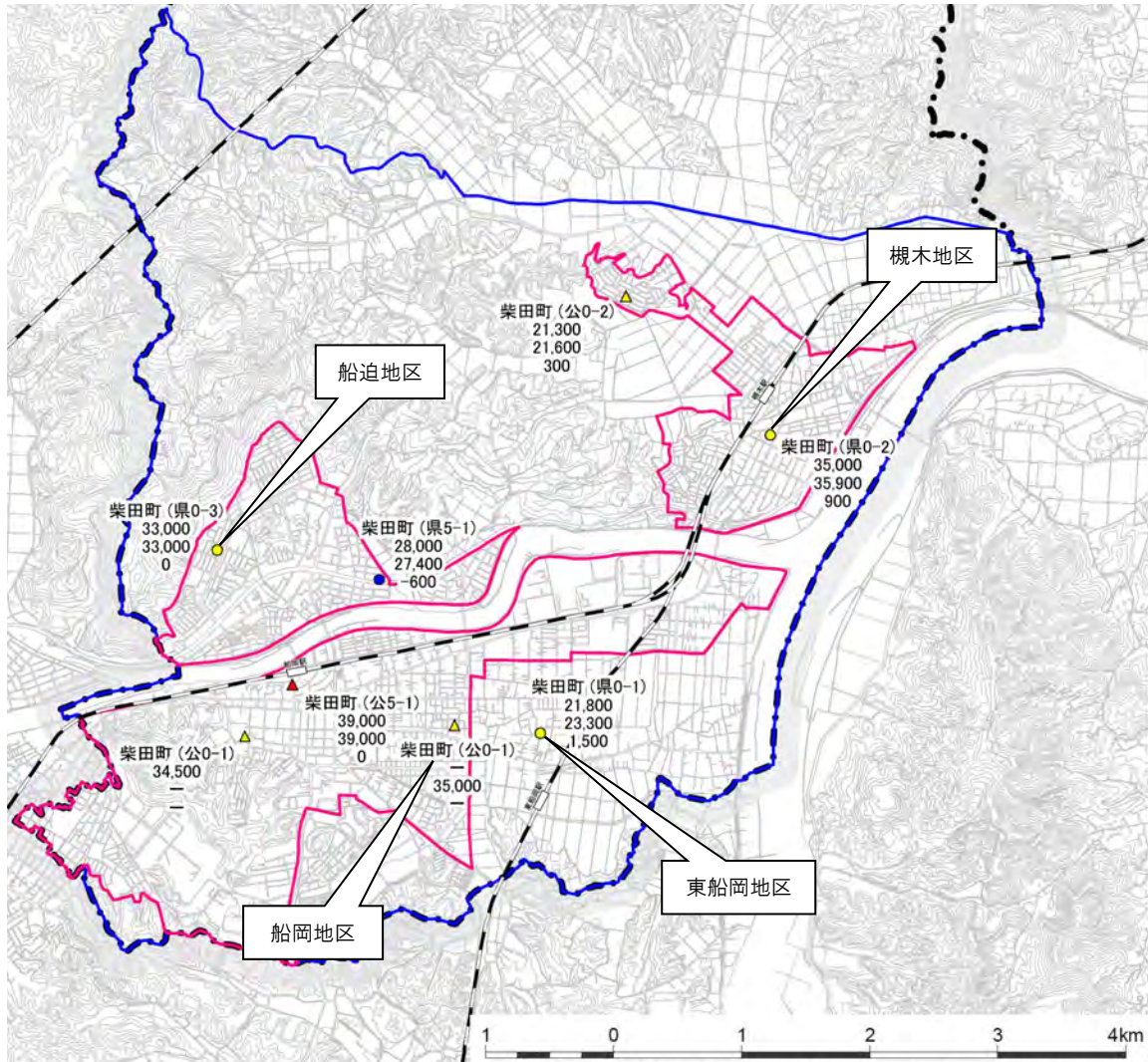
資料：宮城県の地価調査

## イ) 町内の地価の状況

柴田町の地価について見ると、槻木地区中心部で 35,900 円、船岡地区中心部で 35,000 円となっています。

東船岡地区の用途地域外では、23,300 円と中心部と比べて低い価格となっています。

### ■地価の状況



行政界		
都市計画区域界		
用途地域界		
地価公示標準値	住宅用地	
	商業用地	
地価調査基準値	住宅用地	
	準工業用地	
地価及び地価動向 (単位:円/m <sup>2</sup> )	上段	平成28年価格
	中段	平成31年価格
	下段	価格増減

資料:全国地価マップ



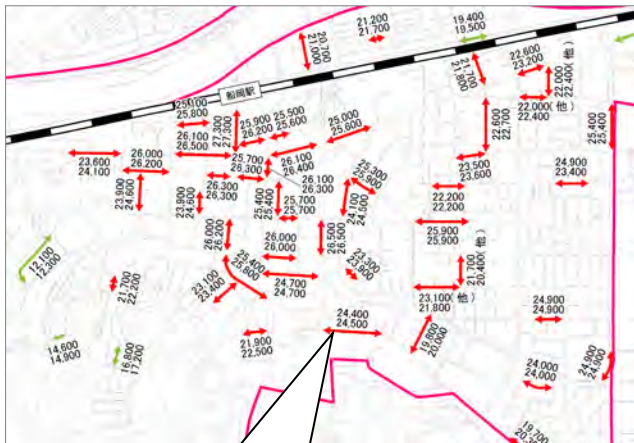
## ウ) 町内の固定資産税路線価の状況

固定資産税路線価を見ると、船岡地区中心部と槻木地区中心部で 2 万円台となっています。

東船岡地区、槻木地区の用途地域外では、2 万円未満と中心部と比べて低い価格となっています。

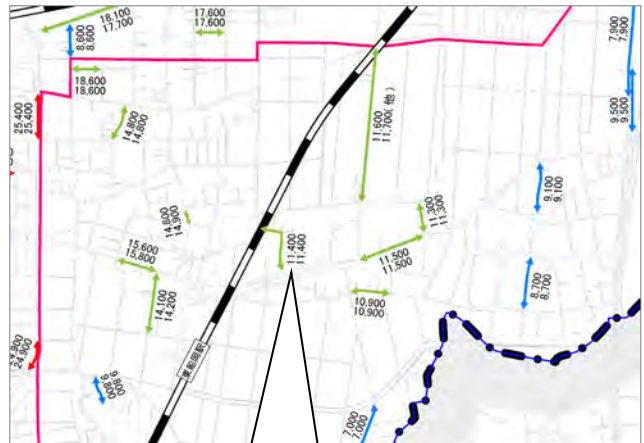
### ■ 固定資産税路線価の状況

＜船岡地区拡大図＞



用途地域内は、2万円台の価格となっています。

＜東船岡地区(用途地域外)拡大図＞



用途地域外は、2万円未満の価格となっています。

＜槻木地区拡大図＞



用途地域外は、2万円未満の価格となっています。

＜槻木地区(用途地域外)拡大図＞



用途地域外は、2万円未満の価格となっています。

行政界		
都市計画区域界		
用途地域界		
路線 (主要な街路)	価格	～ 10,000
		10,000 ～ 20,000
		20,000 ～
固定資産税路線価 (単位: 円 / m <sup>2</sup> )	上段	平成28年度価格
	下段	令和元年度価格

※図中の価格の(他)はその他の街路を示す

資料: 全国地価マップ

## (4) 土地利用

### ① 土地利用現況

柴田町の土地利用は、用途地域内に都市的土地利用がまとまっていますが、槻木地域と東船岡地域の用途地域外でも都市的土地利用の分布が目立っています。

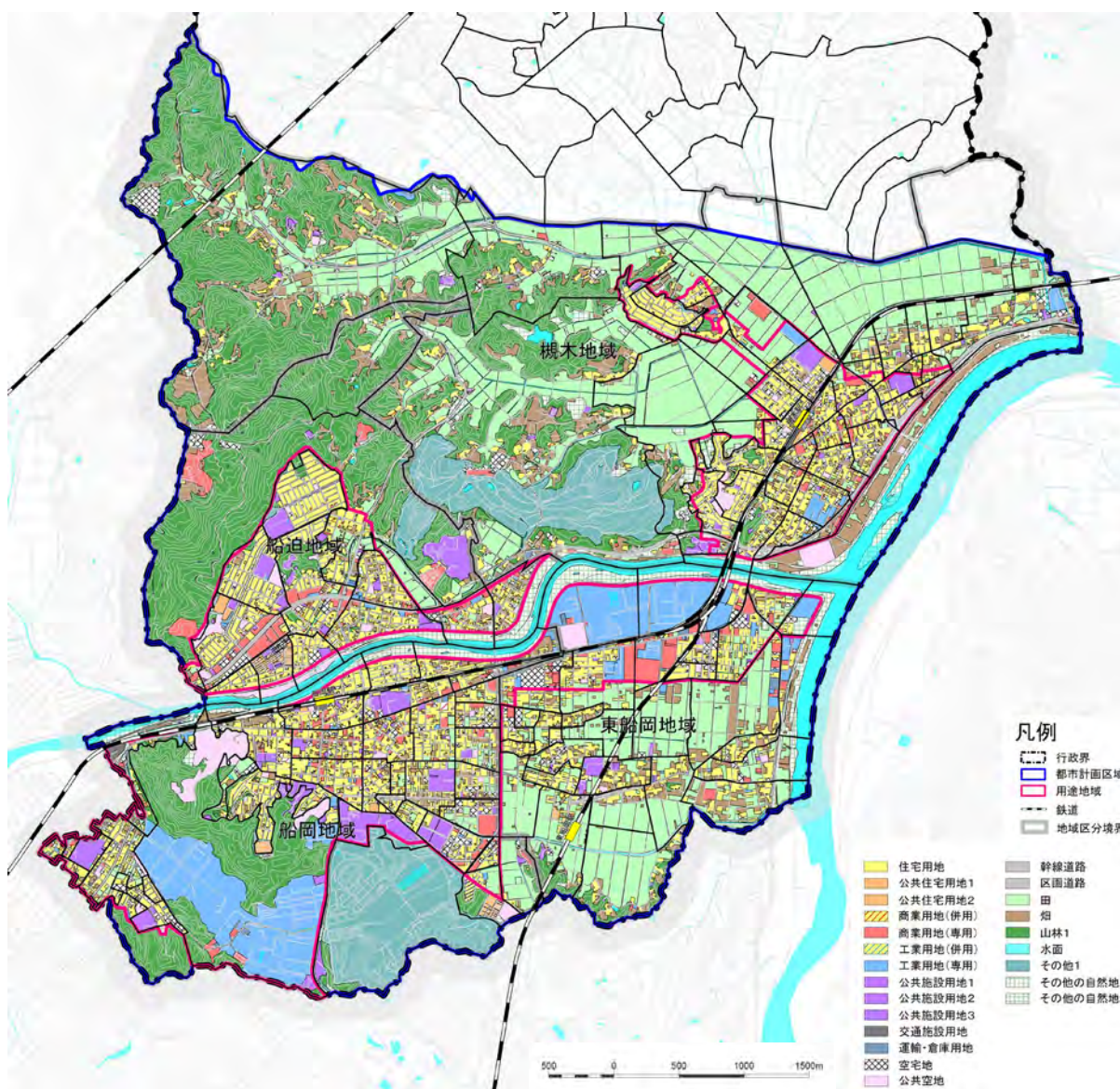
槻木地域では国道4号とJR東北本線に挟まれるエリアで都市的土地利用が連坦しています。

東船岡地域では、農地の中央部に都市的土地利用が虫食い状に行われています。

農地転用の状況を見ると、槻木地域と東船岡地域の用途地域外において多く見られます。

農業人口の推移、耕地面積の推移と併せてみると、兼業農家が減少するにつれて、その所有している耕地を転用し、住宅に変わってきた状況がうかがえます。

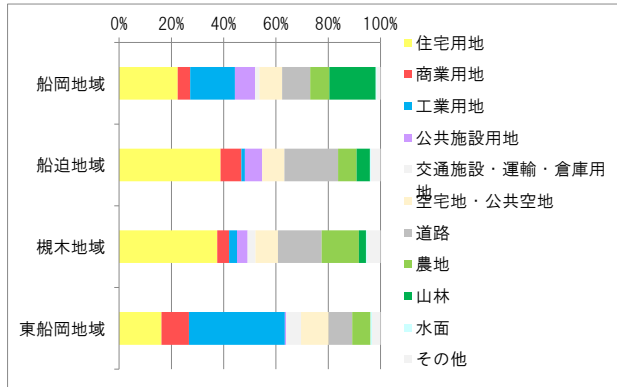
■土地利用現況図



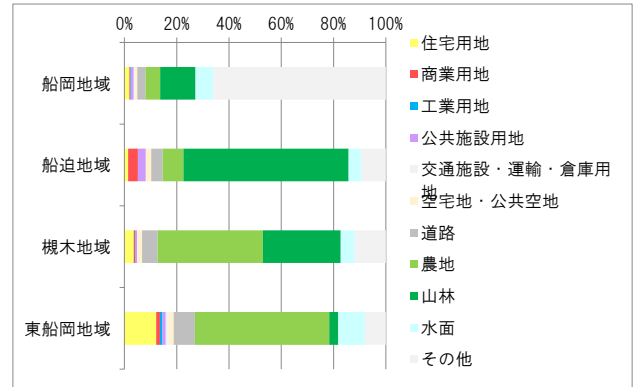
資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)

## ② 土地利用区分面積

■土地利用構成（既存市街地）



■土地利用構成（集落地）



資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)

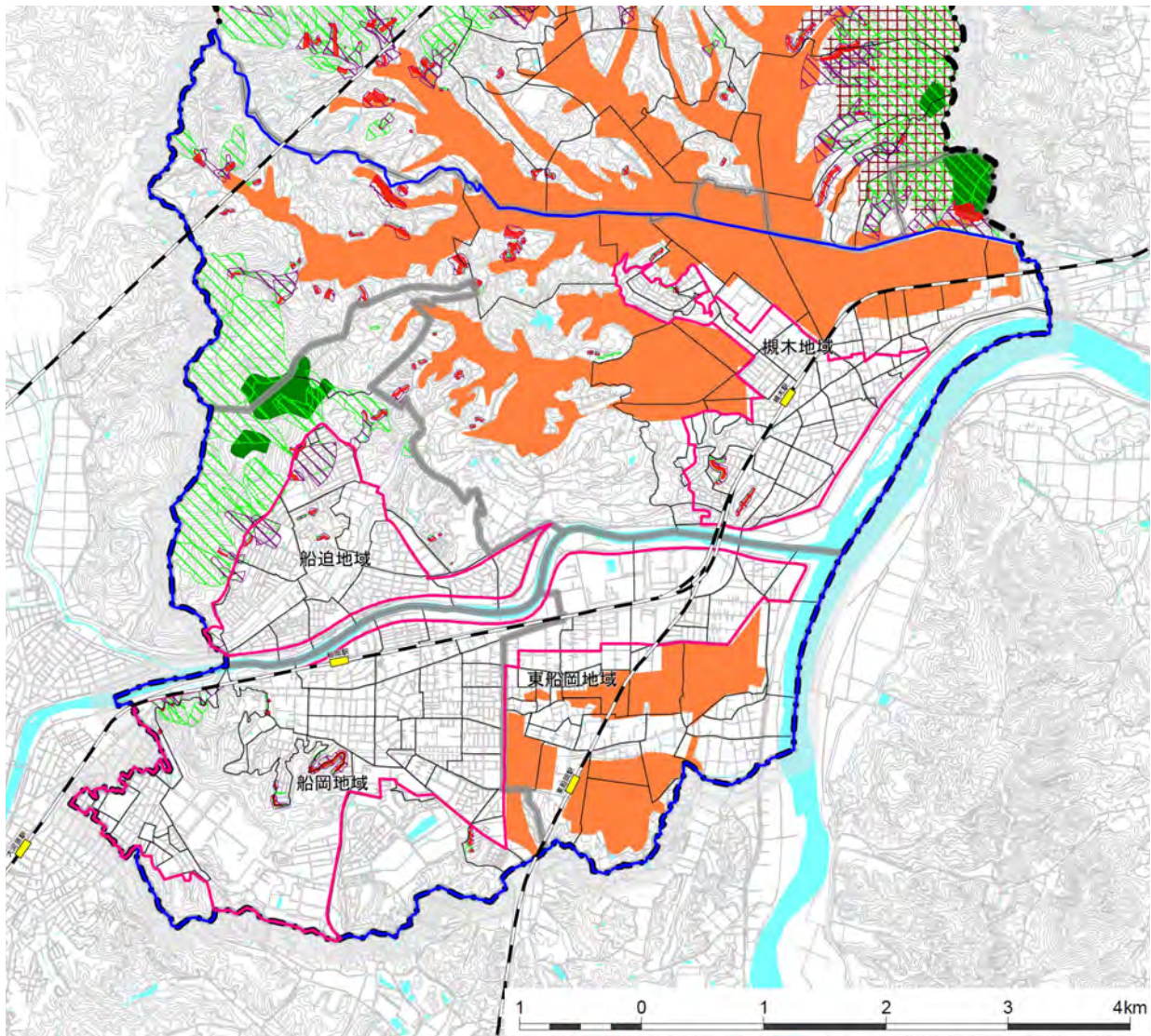


### ③ 法規制指定状況

法規制指定では、槻木地域と東船岡地域の用途地域外において広く農用地区域が指定されています。

都市的土地利用がなされている用途地域内で、土砂災害に係る警戒区域等が指定されており、船迫地域では、住宅団地に重なる箇所が見られます。

図 法規制指定状況



- |   |   |  |
|---|---|--|
| 凡例  | (土砂災害)  | (農業)   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li> 土砂災害危険区域</li> <li> 土砂災害警戒区域</li> <li> 土砂災害特別警戒区域</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li> 農用地区域</li> </ul> |
|   | (自然環境)  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li> 保安林</li> <li> 緑地環境保全区域</li> </ul>   |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li> 行政界</li> <li> 都市計画区域</li> <li> 用途地域</li> <li> 河川</li> <li> 鉄道</li> <li> 地域区分境界</li> </ul> |   |  |

資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)

#### ④ 開発動向

##### ア) 新築着工

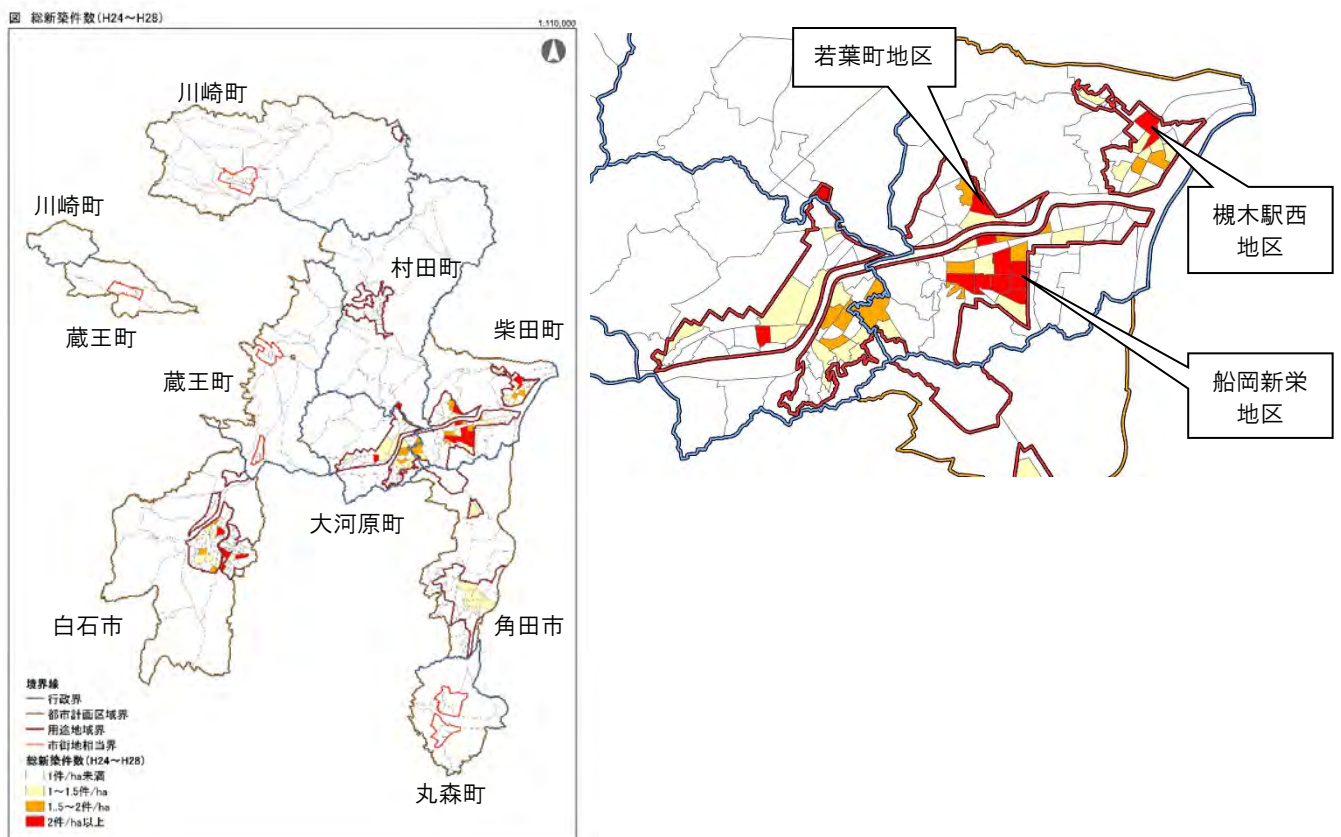
県南部都市圏全体でゾーン面積当たり総新築件数（H24～H28 に建てられた建物棟数/ゾーン面積）をみると以下のような特徴があります。

総新築件数の高いゾーンがあるのは、白石市、柴田町、大河原町となっています。

柴田町の総新築件数の高いゾーンは、槻木駅西地区、船岡新栄地区、若葉町地区となっています。

船岡新栄地区は仙台大学、陸上自衛隊船岡駐屯地に近接している地区であり、賃貸住宅について一定程度の需要があるものと思われます。

##### ■新築着工（都市計画区域内のみ）

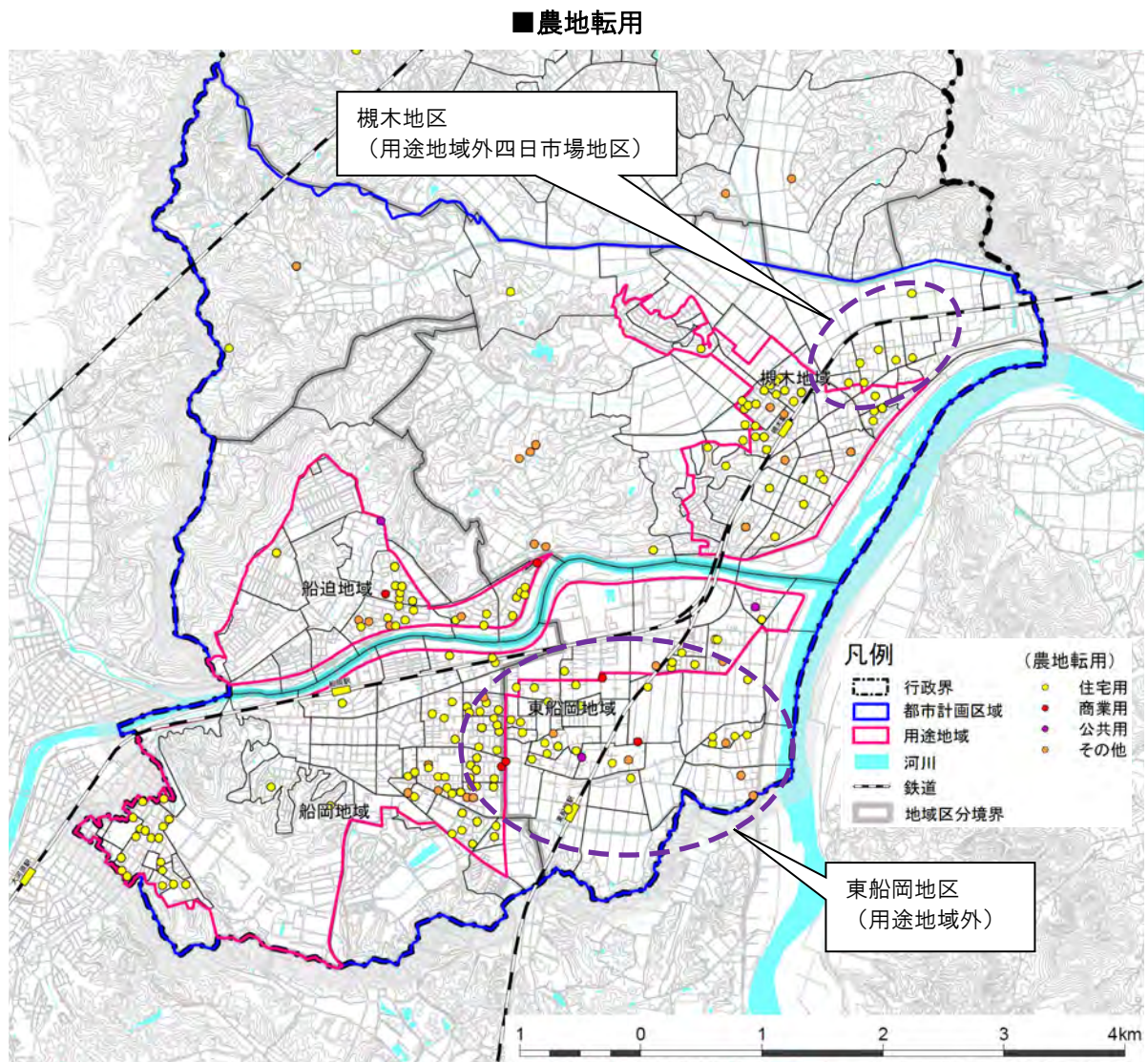


資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)



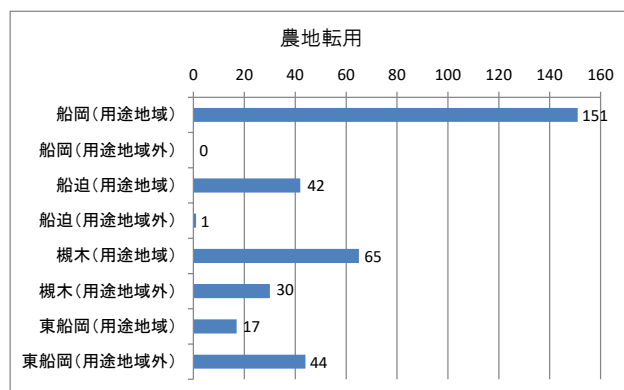
## イ) 農地転用

船岡新栄・槻木西地区などに加え、用途区域外（東船岡・四日市場地区）で農地転用による宅地化が多く確認できます。



資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)

## ■地域別農地転用件数



## ウ) 柴田町内の建築確認申請箇所（新築、全用途）

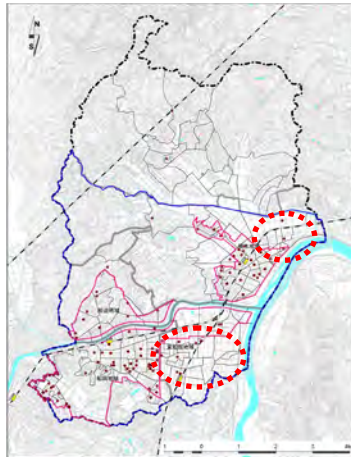
建築確認申請箇所（新築、全用途）をみると、申請箇所が多いのは用途地域内となつていますが、東船岡地区、槻木地区では、用途地域外での申請も目立っています。

### ■柴田町内の建築確認申請箇所（新築、全用途）

H27年（2015年）



H28年（2016年）



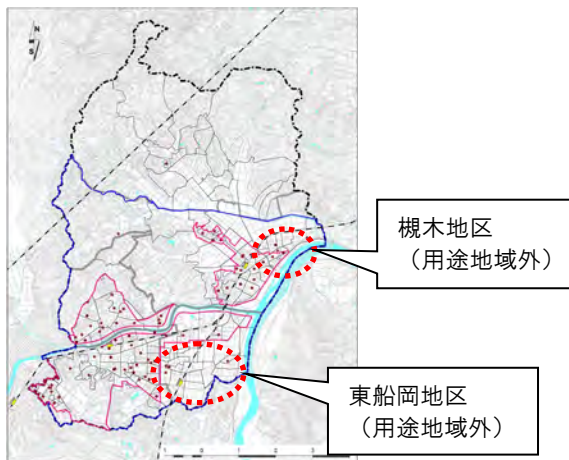
H29年（2017年）



H30年（2018年）



R元年（2019年）



#### 凡例

- 行政界
- 都市計画区域
- 用途地域
- 河川
- 鉄道
- 地域区分境界
- 建築確認申請箇所（新築）

資料：柴田町資料

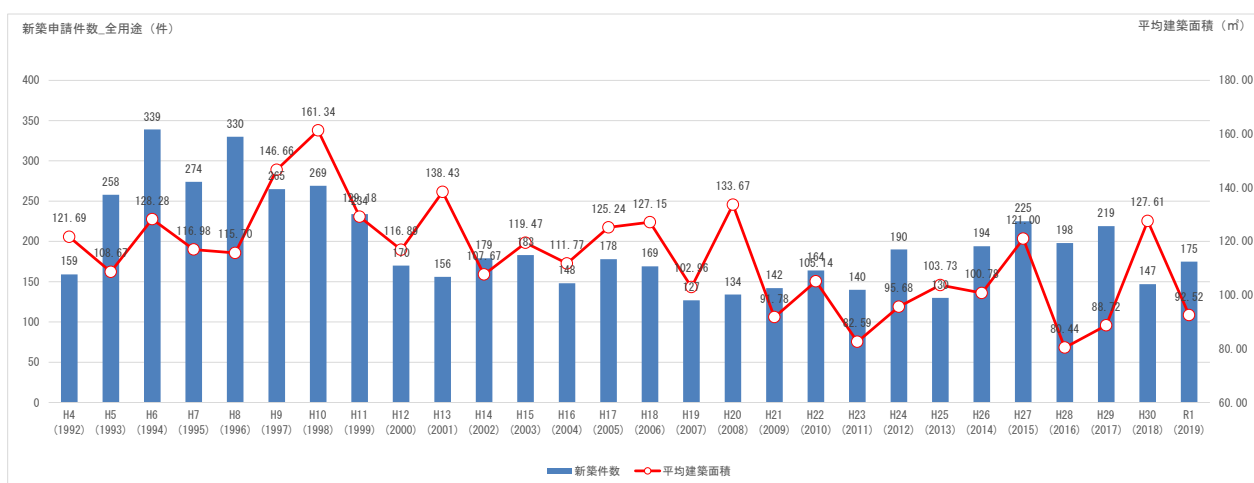
## エ) 建築確認申請件数と平均建築面積の推移

建築確認申請件数（新築、全用途）の推移をみると、平成6年から平成11年の間は、200件以上で推移していましたが、その後は減少し、概ね200件以下で推移しています。

建築確認申請件数（新築、住宅）の推移を見ると、平成6年から平成11年の間は、200件以上で推移していたが、その後減少し、概ね200軒以下で推移しています。

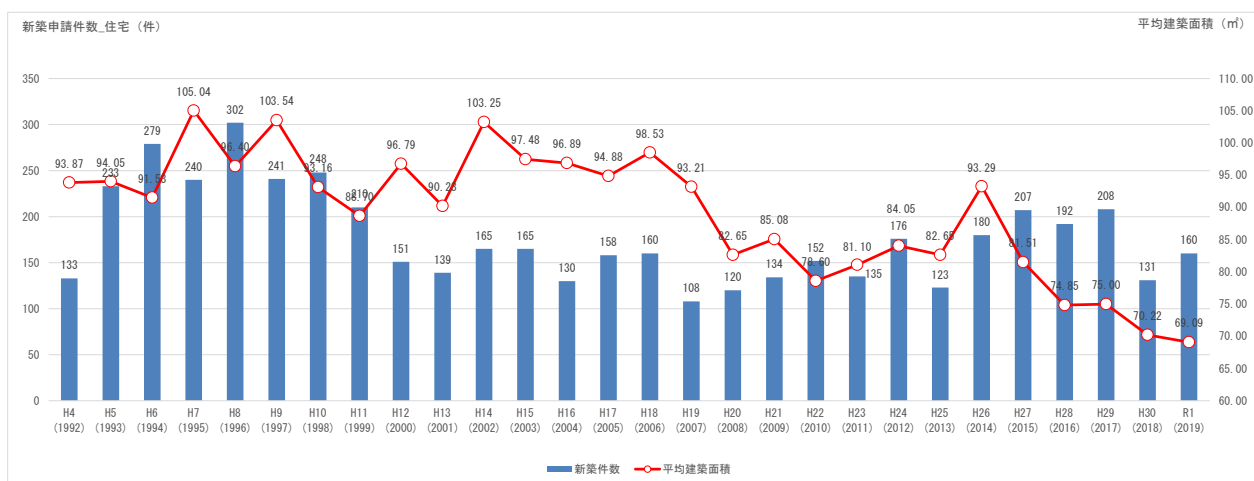
平均建築面積（新築、住宅）の推移は、概ね100㎡前後で推移していますが、平成20年以降では、100㎡以下で推移し、R1年では69.09㎡となっており、建築面積が縮小している状況がみられます。

■ 建築確認申請件数（新築、全用途）と平均建築面積の推移



資料：柴田町資料

■ 建築確認申請件数（新築、住宅）と平均建築面積の推移



資料：柴田町資料

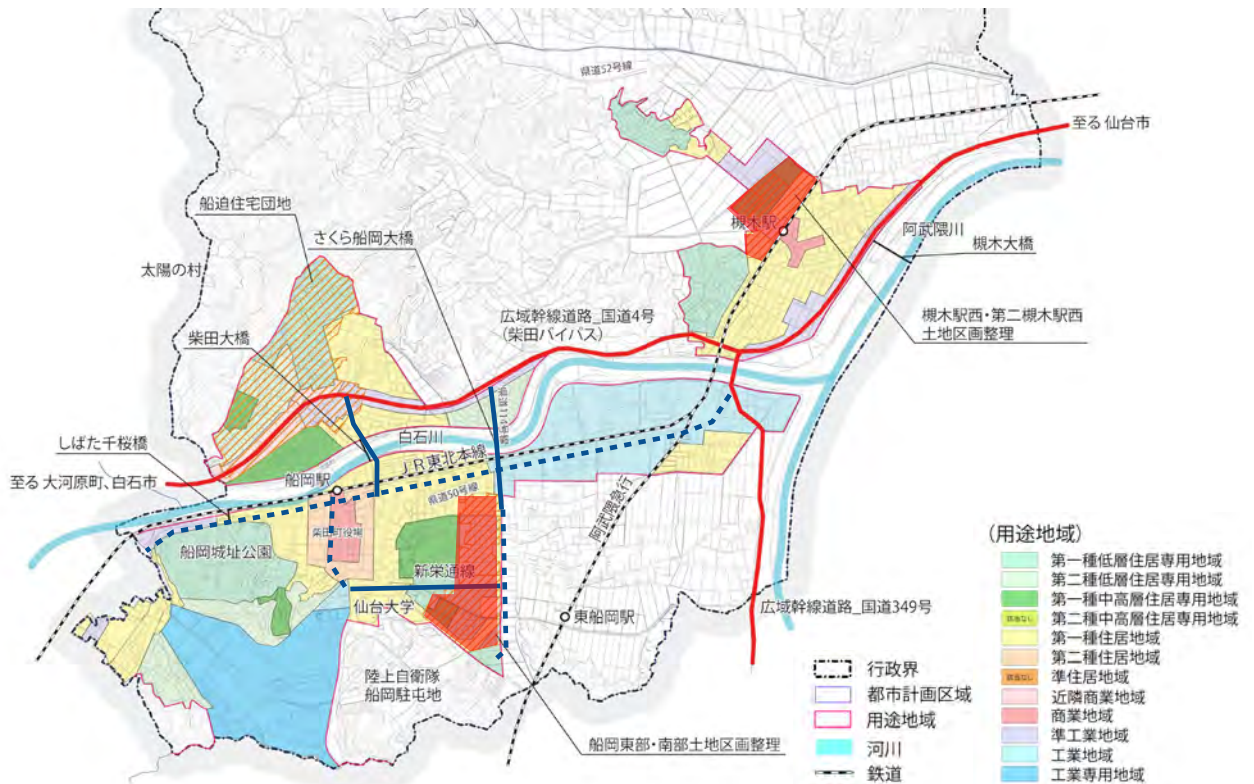
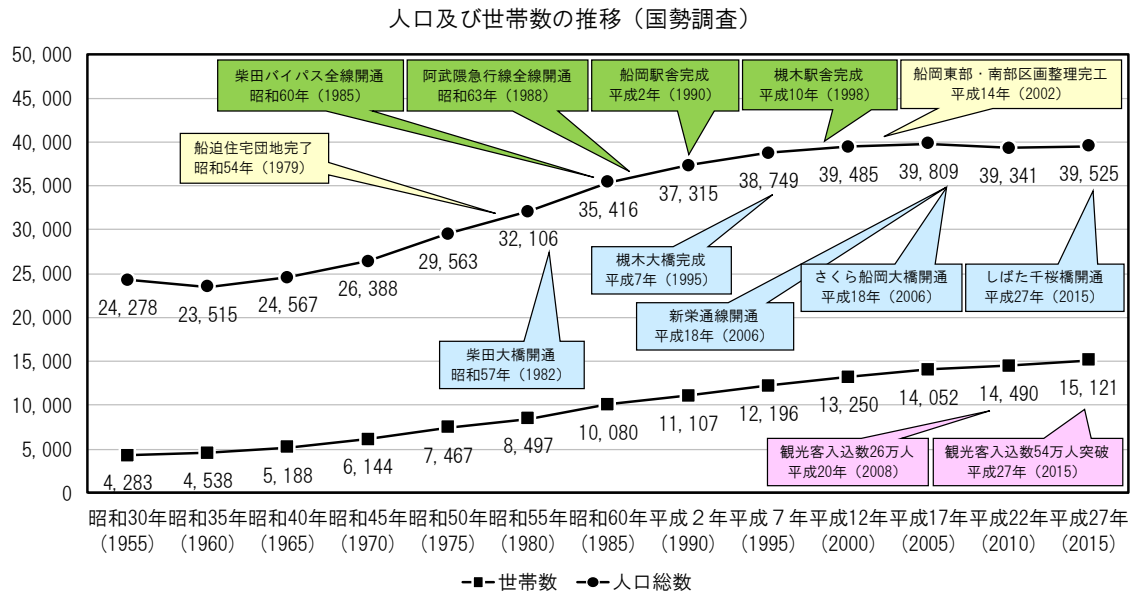


## ⑤ 市街化の状況

### ア) 市街地開発の概況

柴田町は昭和31年に船岡町と槻木町が合併して誕生し、区画整理を主として宅地造成を進め、昭和54年には船迫住宅団地、平成に入り船岡東部・南部土地区画整理事業(現：船岡新栄地区)、槻木駅西土地区画整理事業などの宅地造成を進めてきました。

交通網の整備として、白石川によって分断された市街地を結ぶための柴田大橋、さくら船岡大橋などの横軸の幹線道路として新栄通線などの街路整備を進めてきました。



## イ) 団地形成、仙台大学の配置

現在まで柴田町発展のきっかけとして、第一海軍火薬廠跡地の活用があり、現在の工業団地、仙台大学が配置されました。

昭和 36 年に工場の第 1 号が進出し、工業団地が形成されてきました。

昭和 42 年に、東北、北海道で初めての体育学科を有する仙台大学が立地しました。大学の立地により、柴田町は学生の町としての特徴を有する町となりました。

昭和 49 年には、宮城県住宅供給公社との共同開発により、船迫住宅団地建設が着手され、人口の受け皿が整備されてきました。





## (5) 都市施設

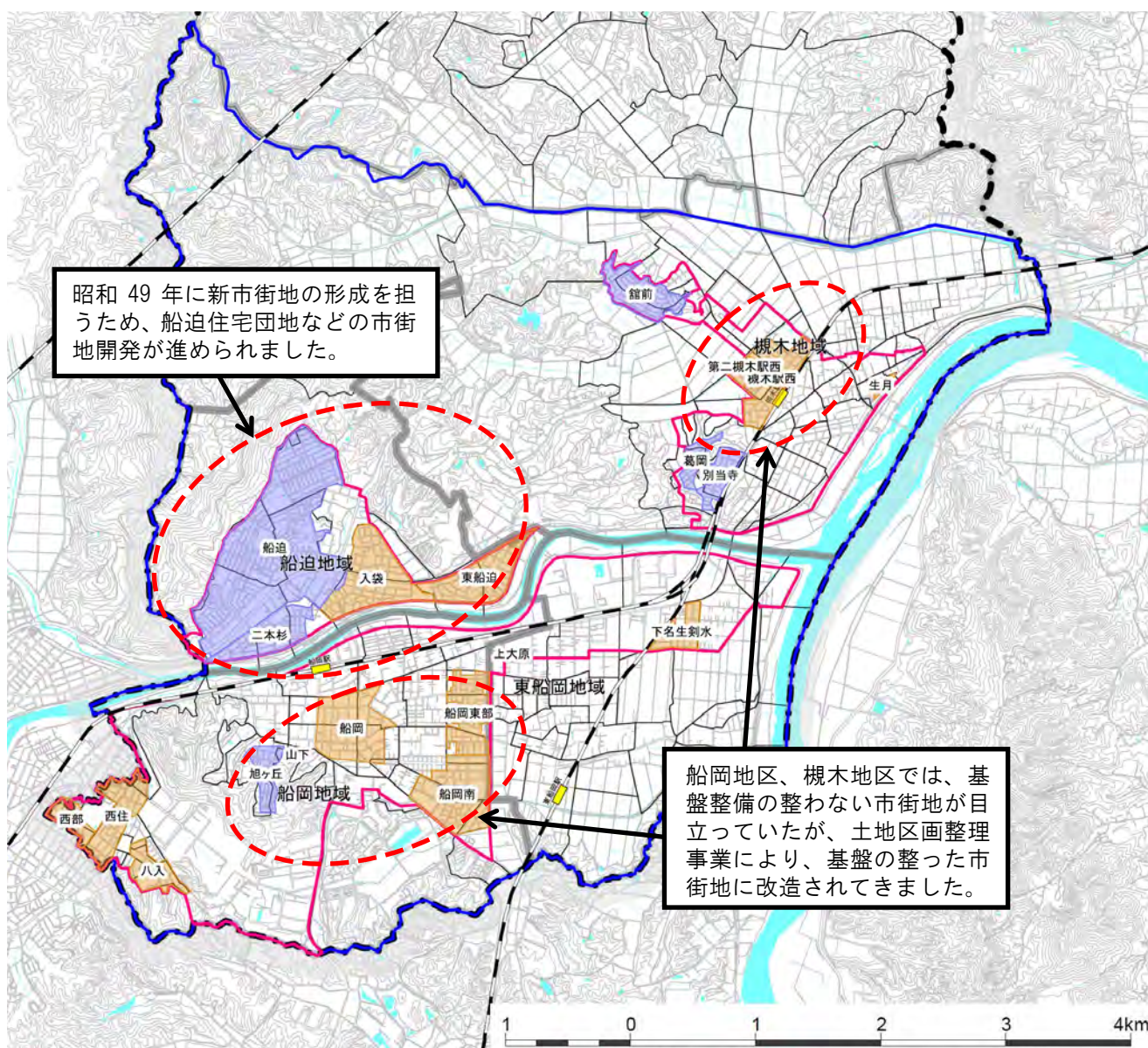
### ① 面整備

柴田町の市街地開発は、土地区画整理事業と住宅団地開発によって進められてきました。

当初は、白石川以北の新市街地の形成を担うものでした。

白石川以南の市街地周辺部では、基盤施設が不足したままの住宅のスプロール化が目立っていましたが、槻木駅西口土地区画整理事業、船岡地区の船岡東部・南部土地区画整理事業などにより、基盤の整った市街地が整備されてきました。

#### ■面整備の状況



#### 凡例

- |  |        |  |          |
|--|--------|--|----------|
|  | 行政界    |  | 土地区画整理事業 |
|  | 都市計画区域 |  | 住宅団地造成事業 |
|  | 用途地域   |  |          |
|  | 河川     |  |          |
|  | 鉄道     |  |          |
|  | 地域区分境界 |  |          |



### ■面整備の状況

	地区名	事業種別	事業面積 (ha)	農地面積 (ha)	計画人口 (人)	計画世帯 (世帯)	事業期間 (年度～年度)
101	船岡	土地区画整理事業（組合）	26.8	—	—	—	S13～S23
102	西部	土地区画整理事業（町）	4.3	—	—	—	S32～S38
103	西住	土地区画整理事業（組合）	22.0	—	—	—	S47～S52
104	入袋	土地区画整理事業（組合）	28.9	—	—	—	S48～S53
105	上大原	土地区画整理事業（組合）	1.4	—	—	—	S51～S52
106	八入	土地区画整理事業（組合）	9.9	—	—	—	S56～S59
107	山下	土地区画整理事業（組合）	0.7	—	—	—	S58～S59
108	東船迫	土地区画整理事業（組合）	20.0	—	—	—	S60～H2
109	槻木駅西	土地区画整理事業（組合）	20.8	—	1,400	423	H3～H10
110	船岡東部	土地区画整理事業（組合）	18.5	—	1,251	391	H4～H8
111	船岡南	土地区画整理事業（組合）	20.5	—	2,080	650	H7～H13
112	下名生剣水	土地区画整理事業（組合）	8.2	—	569	178	H6～H9
113	第二槻木駅西	土地区画整理事業（組合）	3.0	—	—	—	H6～H9
114	生月	土地区画整理事業（組合）	1.7	—	150	47	H9～H12
201	二本杉	住宅団地造成事業（町）	16.0	—	—	580	S36～S54
202	葛岡	住宅団地造成事業（町）	3.2	—	—	—	S39～S40
203	別当寺	住宅団地造成事業（町）	7.3	—	—	184	S44～S45
204	旭ヶ丘	住宅団地造成事業（町）	4.9	—	—	—	S44～S45205
205	船迫	住宅団地造成事業（町）	89.0	—	—	1,600	S46～S54
206	八入	住宅団地造成事業（民間）	1.60				S50～S51
207	八入	住宅団地造成事業（民間）	1.23				S51～S52
208	館前	住宅団地造成事業（町・民間）	17.0	—	—	422	S53～S62

資料：柴田町資料

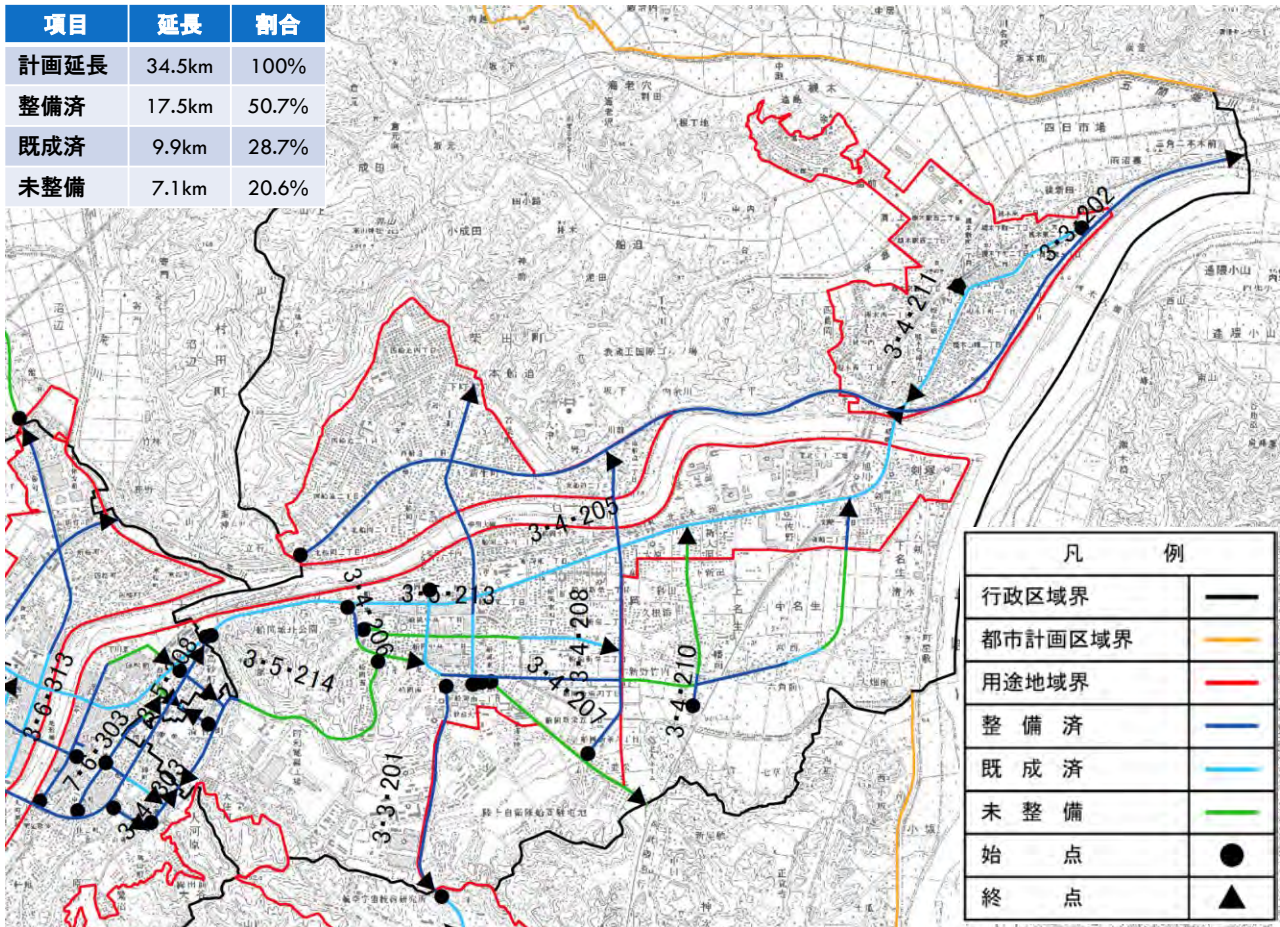
## ② 都市計画道路

都市計画道路は、計画延長 34.5km のうち 50.7% が整備されています。

整備済みは広域交通を担う東西の広域交通軸、市街地を分断している白石川を横断する南北の交通軸であり、現在の本町市街地の骨格を形成する道路網の整備が進んでいます。

一方、長期の未整備箇所をみると、船岡エリアの商業地域に計画されている(都)中央線、東船岡エリアの骨格道路となる(都)新栄通線、(都)東船岡駅前線など長期の未整備区間となっています。

■ 都市計画道路の整備状況 (R2.6 現在)



資料：柴田町資料

■都市計画道路の路線別整備状況

路線番号	路線名	計画幅員 (m)	計画延長 (m)	整備済		既成済	
				延長 (m)	構成比 (%)	延長 (m)	構成比 (%)
3・3・101	南光大通線	25	1,600	1,600	100.0	0	0
3・3・202	国道幹線	22	7,900	7,900	100.0	0	0
3・4・203	新栄通線	15~18	4,590	2,250	49.0	1,070	23.3
3・4・204	大橋通線	22	2,250	1,700	75.6	550	24.4
3・4・205	船岡幹線	16	5,460	0	0	5,460	100.0
3・4・206	館山線	16	840	260	31.0	0	0
3・4・207	船岡角田線	16	1,550	0	0	0	0
3・4・208	大沼通線	16	2,330	2,330	100.0	0	0
3・4・209	西住線	16	60	60	100.0	0	0
3・4・210	東船岡駅前線	16	1,310	260	19.8	0	0
3・4・211	槻木幹線	16	1,920	0	0	1,920	100.0
3・4・212	槻木駅前線	16	140	0	0	0	0
3・5・213	中央線	12	1,910	0	0	740	38.7
3・5・214	山手線	16	2,280	790	34.6	0	0
7・6・201	新西住線	9	190	190	100.0	0	0
7・7・202	神山前線	—	130	0	0	0	0

資料:柴田町資料

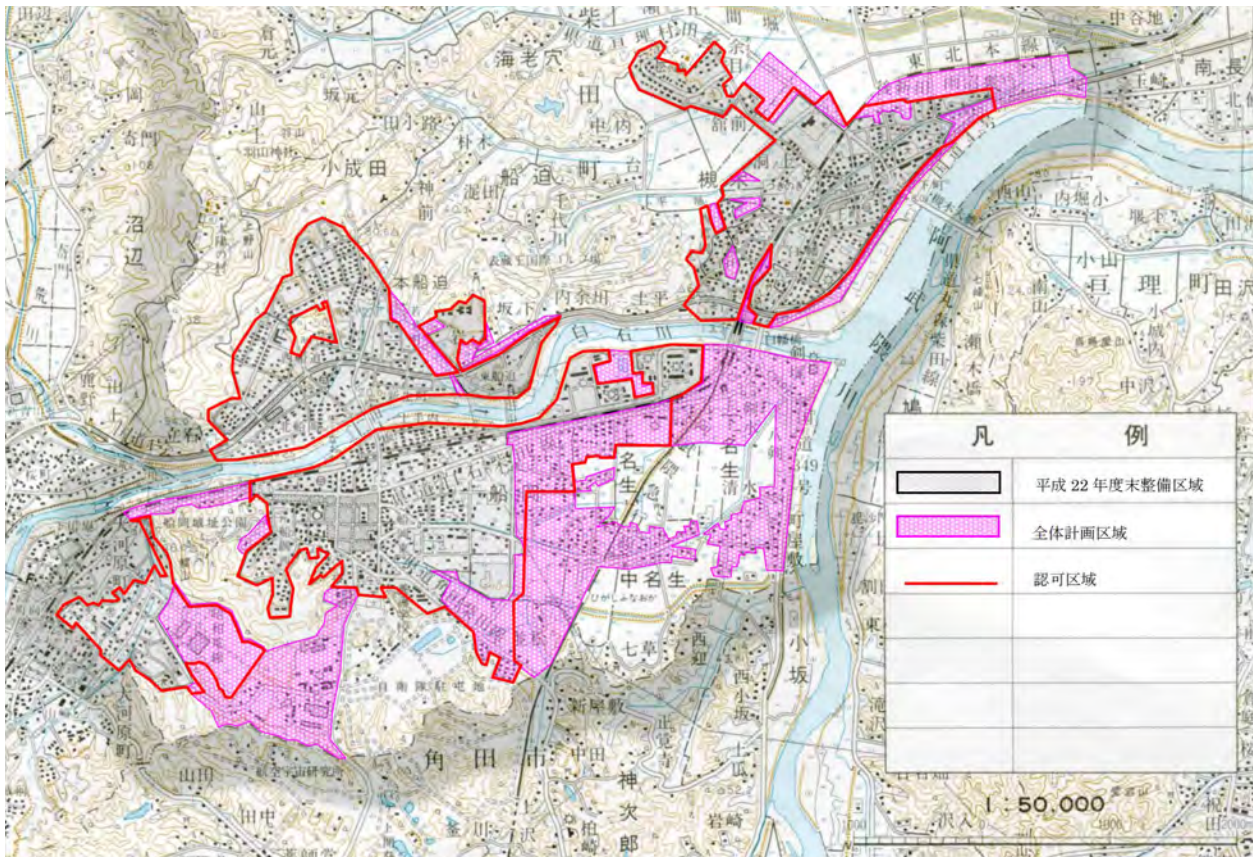


### ③ 下水道

下水道（污水）は都市計画決定区域が 1,162ha、事業認可区域は 890.2ha のうち供用区域は 716ha（80.4%）となっており、船岡地域や船迫地域、槻木地域の市街地を中心に整備が進んでいます。

下水道（雨水）は都市計画決定区域が 1,256ha、事業認可区域は 406.0ha のうち供用区域は 193ha（47.5%）となっています。

#### ■下水道の整備状況



資料：柴田町資料（ホームページ）

#### ■下水道の処理区別整備状況

処理区名	種別		方式	面積			
	単独・流域の別	公共・特環の別		都市計画決定区域 (ha)	事業認可区域 (ha)	供用区域 (ha)	整備率 (%)
柴田処理区（污水）	流域関連	公共	分流	1,162	890.2	716	80.4
下水道（污水）合計				1,162	890.2	716	80.4
杉崎排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	120	0	0	0
中央排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	322	0	0	0
船岡排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	343	0	0	0
船迫排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	185	193.0	193	100
岩の入排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	73	0	0	0
槻木第1排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	162	162.0	0	0
槻木第2排水区（雨水）	流域関連	公共	分流	51	51.0	0	0
下水道（雨水）合計				1,256	406.0	193	47.5

資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30（宮城県）

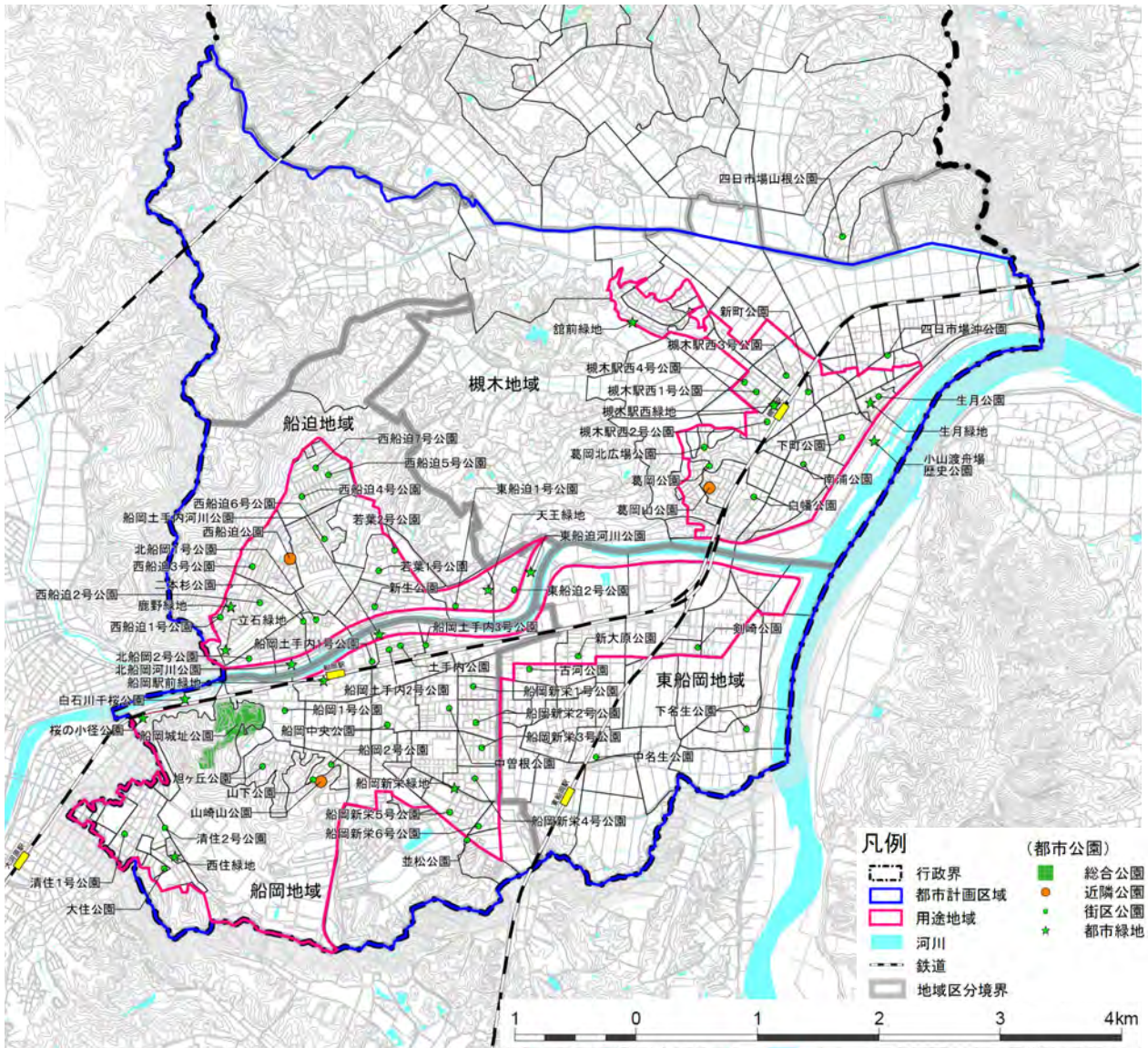


#### ④ 都市計画公園

都市計画公園の整備は概ね完了しており 41 箇所のうち、38 箇所が整備済みとなっています。

総合公園の 5. 5. 201 船岡城址公園は整備中で整備率 52. 9%となっており、街区公園の 2. 2. 233 二本杉公園と 2. 2. 235 清住 2 号公園の 2 箇所は未整備となっています。

#### ■都市計画公園



資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)、柴田町資料

■都市計画公園の整備状況

種別	番号	公園名	計画面積	供用面積	整備率	計画決定年月日
			(ha)	(ha)	(%)	
街区公園	2・2・201	旭ヶ丘公園	0.12	0.1	100.0	S28.7.22
街区公園	2・2・206	葛岡公園	0.31	0.3	100.0	S38.3.19
街区公園	2・2・206	土手内公園	0.13	0.1	100.0	S45.6.23
街区公園	2・2・233	二本杉公園	0.29	0	0	H14.6.18
街区公園	2・2・224	南浦公園	0.20	0.2	100.0	S47.3.11
街区公園	2・2・218	新町公園	0.28	0.3	100.0	S47.3.11
街区公園	2・2・205	中曾根公園	0.05	0.1	100.0	S48.12.19
街区公園	2・2・204	船岡中央公園	0.45	0.5	100.0	S51.4.8
街区公園	2・2・234	清住1号公園	0.30	0.3	100.0	S51.4.8
街区公園	2・2・235	清住2号公園	0.42	0	0	H28.1.15
街区公園	2・2・207	新生公園	0.40	0.4	100.0	S51.4.8
街区公園	2・2・208	若葉1号公園	0.33	0.3	100.0	S51.4.8
街区公園	2・2・209	若葉2号公園	0.12	0.1	100.0	S51.4.8
街区公園	2・2・202	山下公園	0.33	0.3	100.0	S51.7.31
街区公園	2・2・203	並松公園	0.17	0.2	100.0	S51.7.31
街区公園	2・2・227	西船迫1号公園	0.47	0.5	100.0	S53.11.27
街区公園	2・2・228	西船迫2号公園	0.27	0.3	100.0	S53.11.27
街区公園	2・2・229	西船迫3号公園	0.15	0.2	100.0	S53.11.27
街区公園	2・2・230	西船迫4号公園	0.15	0.2	100.0	S53.11.27
街区公園	2・2・231	西船迫5号公園	0.17	0.2	100.0	S53.11.27
街区公園	2・2・232	西船迫6号公園	0.29	0.3	100.0	S53.11.27
街区公園	2・2・236	大住公園	0.30	0.3	100.0	S58.8.12
街区公園	2・2・225	東船迫1号公園	0.13	0.1	100.0	H3.4.20
街区公園	2・2・226	東船迫2号公園	0.13	0.1	100.0	H3.4.20
街区公園	2・2・219	槻木駅西1号公園	0.21	0.2	100.0	H7.4.10
街区公園	2・2・220	槻木駅西2号公園	0.18	0.2	100.0	H7.4.10
街区公園	2・2・221	槻木駅西3号公園	0.21	0.2	100.0	H7.4.10
街区公園	2・2・210	船岡新栄1号公園	0.16	0.2	100.0	H9.4.9
街区公園	2・2・211	船岡新栄2号公園	0.25	0.3	100.0	H9.4.9
街区公園	2・2・212	船岡新栄3号公園	0.16	0.2	100.0	H9.4.9
街区公園	2・2・216	剣崎公園	0.25	0.3	100.0	H10.12.10
街区公園	2・2・222	槻木駅西4号公園	0.09	0.1	100.0	H10.12.10
近隣公園	3・3・201	山崎山公園	2.70	2.7	100.0	S55.2.29
近隣公園	3・3・202	西船迫公園	1.00	1.0	100.0	S57.1.22
近隣公園	3・3・203	葛岡山公園	2.30	2.3	100.0	H1.3.31
総合公園	5・5・201	船岡城祉公園	28.90	15.3	52.9	H10.12.8
緑地	201	鹿野緑地	1.60	1.6	100.0	S56.3.20
緑地	202	立石緑地	0.40	0.4	100.0	S56.3.23
緑地	203	船岡駅前緑地	0.20	0.2	100.0	S58.8.12
緑地	204	西住緑地	0.40	0.4	100.0	S58.8.12
緑地	205	館前緑地	1.10	1.1	100.0	S61.2.7

資料：県南部地区都市計画基礎調査H29、H30(宮城県)

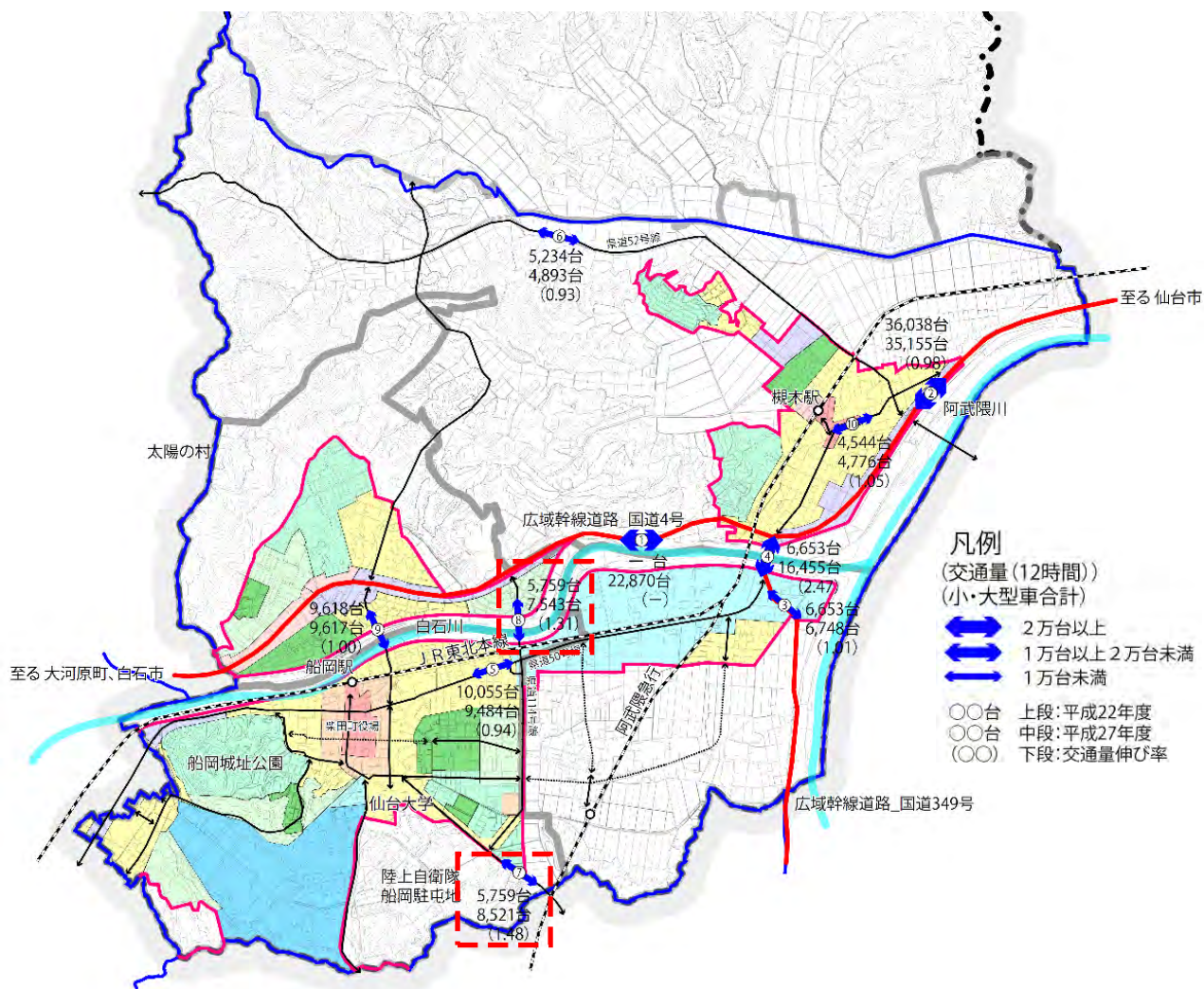


## (6) 交通

### ① 道路

町内の幹線道路となる国県道の交通量では、国道4号、県道白石柴田線、県道船岡停車場船迫線（柴田大橋）、県道亘理村田線などは、0.9～1.0倍と横ばいの交通量に対し、県道角田柴田線（さくら船岡大橋）は1.3～1.5倍と増加しています。

#### ■交通量



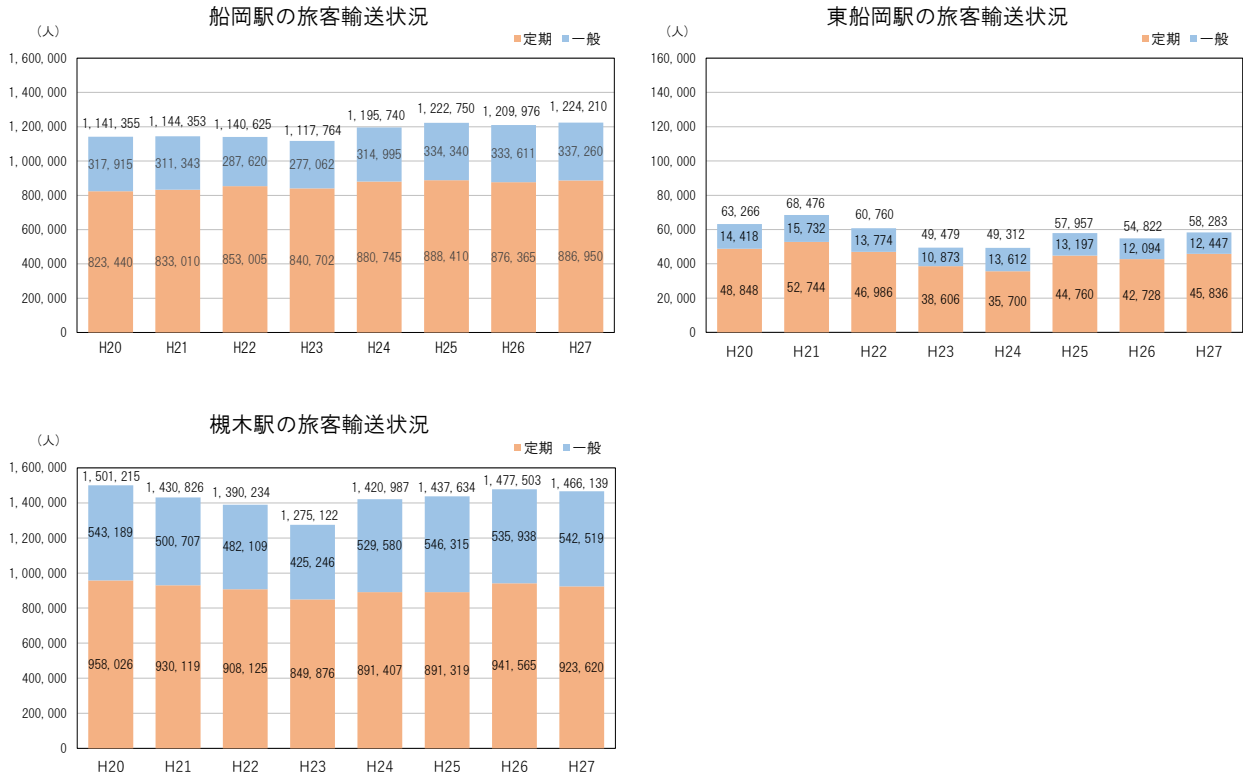
資料:交通量調査(宮城県)

## ② 鉄道

柴田町に停車する鉄道路線は2路線あり、JR東北本線は船岡駅と槻木駅、阿武隈急行は東船岡駅と槻木駅にそれぞれ停車しています。

各駅の旅客輸送人数は平成23年に落ち込んでいますが、平成20年以降は概ね横ばい傾向にあり、3駅を合わせると年間約270万人が利用しています。

### ■旅客輸送状況



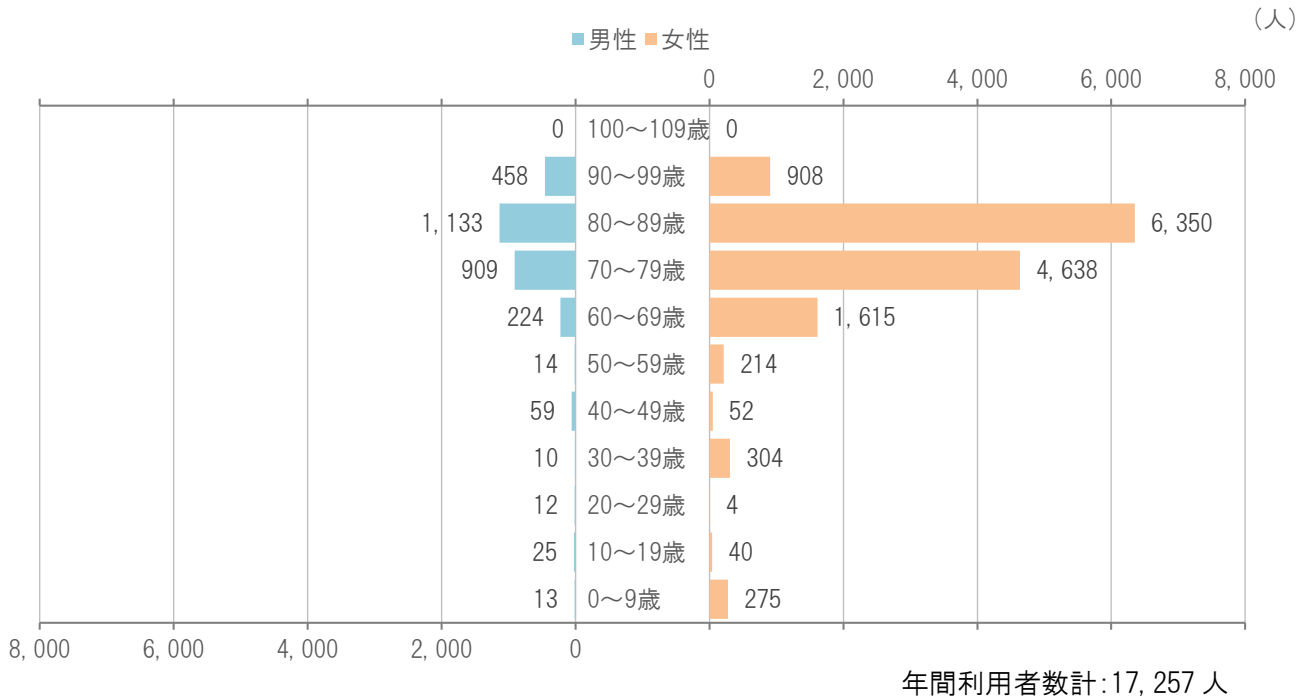
(資料:柴田町統計)



### ③ デマンド交通

柴田町にはJR東北本線や阿武隈急行が通っていますが、その他の交通機関が無いため、駅から離れた公共交通空白地域に暮らす住民や、自家用車の移動が困難な住民などの問題を解消し、住民の移動手段を確保することを目的として、柴田町全域を対象にデマンドタクシーを運行しています。

■デマンドタクシー利用状況



■デマンドタクシー登録者数（令和2年(2020年)3月31日現在）

世帯数	登録世帯数	世帯登録率
15793 世帯	1828 世帯	11.6%
人口	登録者	登録率
37481 人	3072 人	8.2%

## (7) 災害

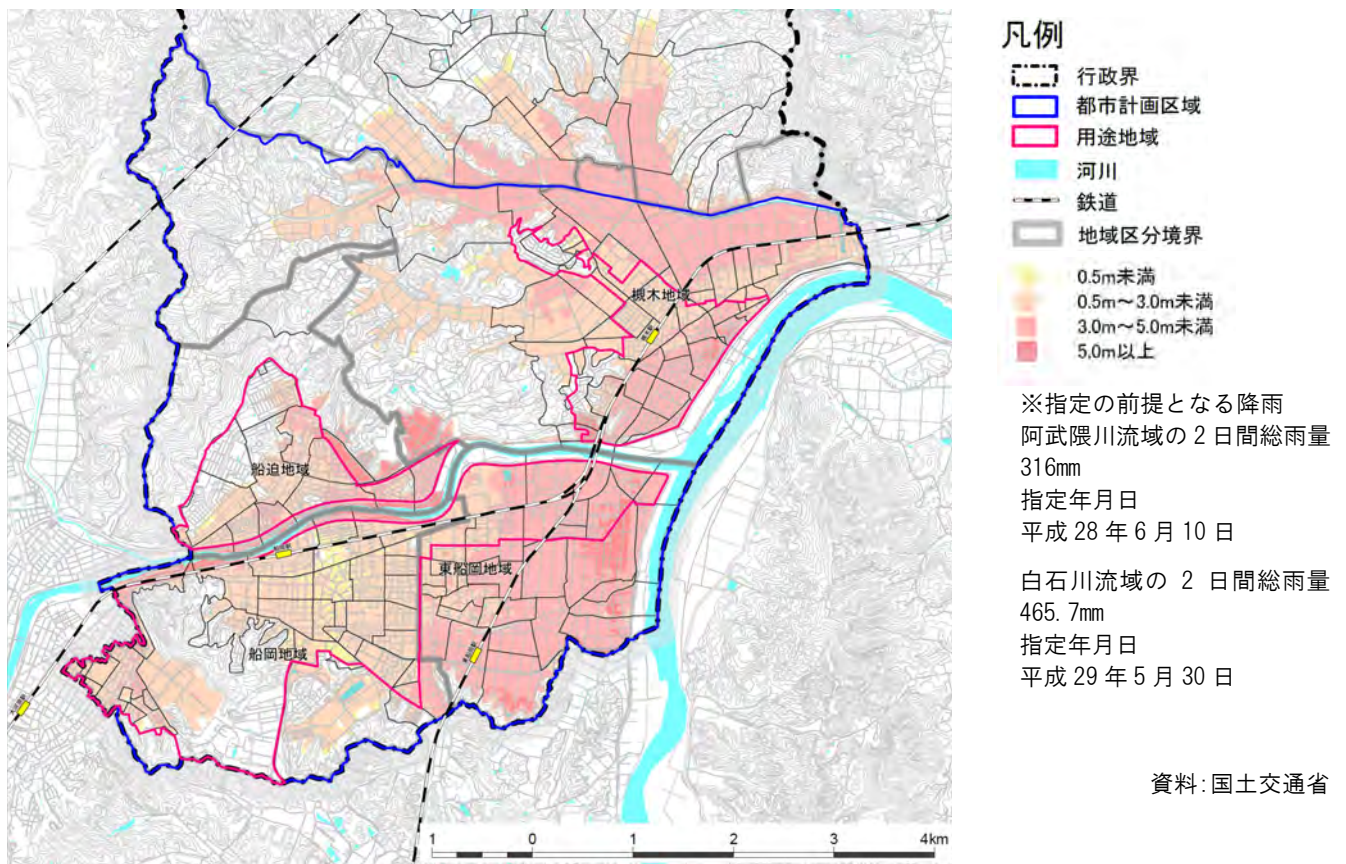
### ① 水害

#### ア) 洪水浸水想定区域図(想定最大規模降雨)

柴田町は市街地となる用途地域のほとんどが洪水浸水区域に該当し、用途地域内人口の90.9%が居住しています。

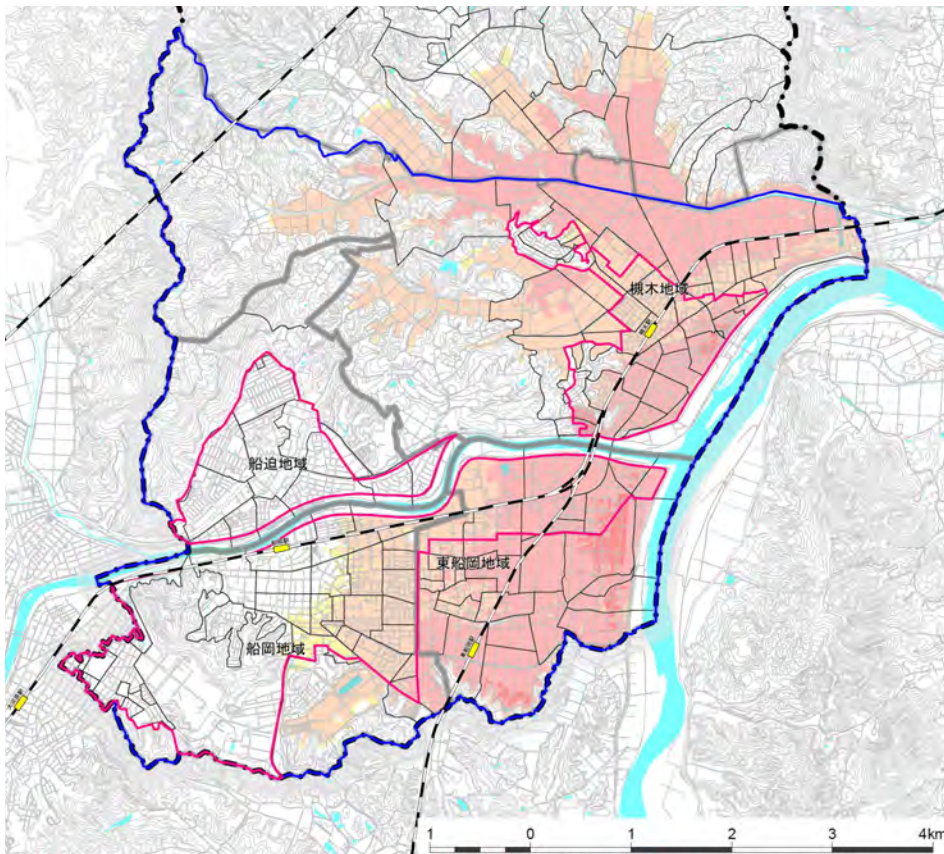
戸建て住宅の2階まで浸水する深さに該当する洪水想定浸水深 3.0m以上の区域では、用途地域内人口の46.5%が居住しています。

#### ■洪水浸水想定区域図(想定最大規模)(阿武隈川・白石川の重ね合わせ)





■洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（阿武隈川）



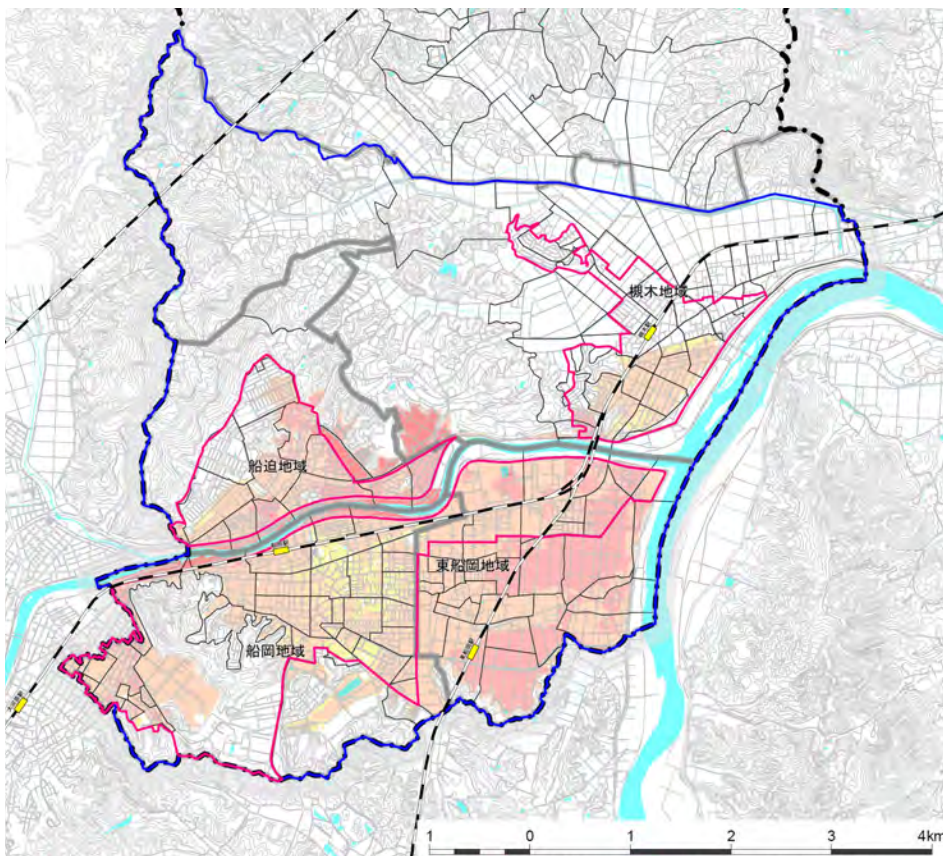
凡例

- 行政界
- 都市計画区域
- 用途地域
- 河川
- 鉄道
- 地域区分境界
- 0.5m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5.0m以上

※指定の前提となる降雨  
阿武隈川流域の2日間総雨量  
316mm  
指定年月日  
平成28年6月10日

資料:国土交通省

■洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（白石川）



凡例

- 行政界
- 都市計画区域
- 用途地域
- 河川
- 鉄道
- 地域区分境界
- 0.5m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5.0m以上

※指定の前提となる降雨  
白石川流域の2日間総雨量  
465.7mm  
指定年月日  
平成29年5月30日

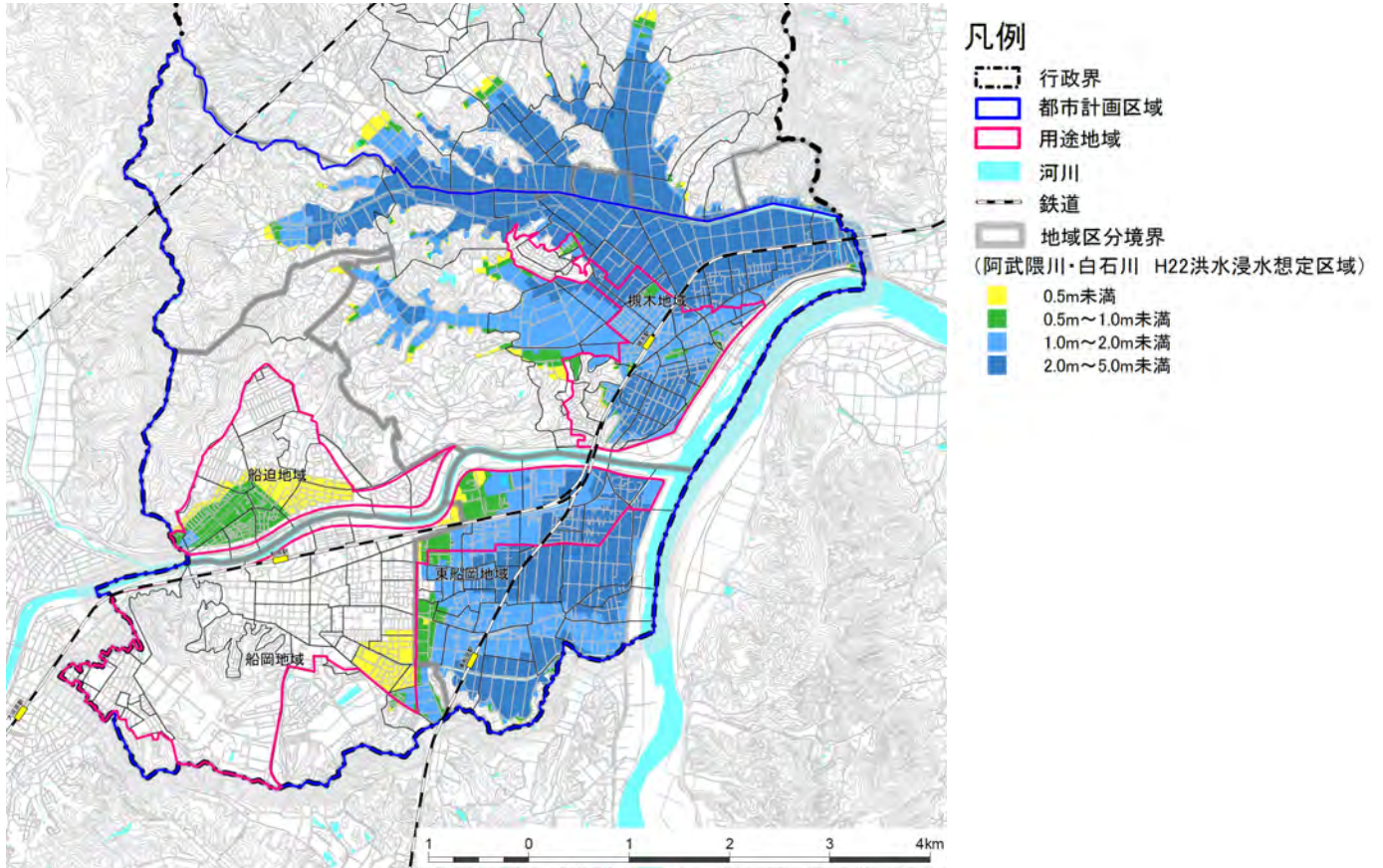
資料:宮城県



## イ) 洪水浸水想定区域図（計画規模降雨）

想定最大規模降雨では、柴田町のほぼ全域が洪水浸水区域でしたが、計画規模降雨でみると、船岡地域は、浸水しない地域となっています。

■ 洪水浸水想定区域図（計画規模降雨）



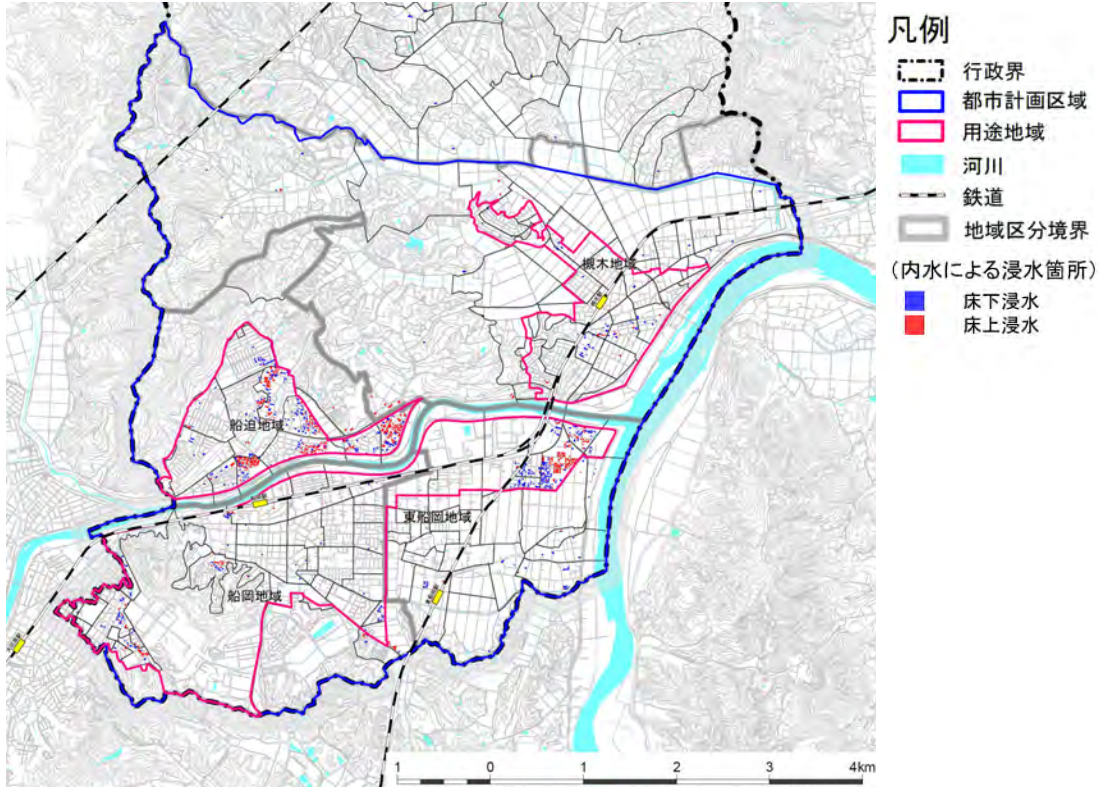
資料：宮城県 白石川浸水想定区域図  
国土交通省東北地方整備局 阿武隈川水系白石川浸水想定区域図



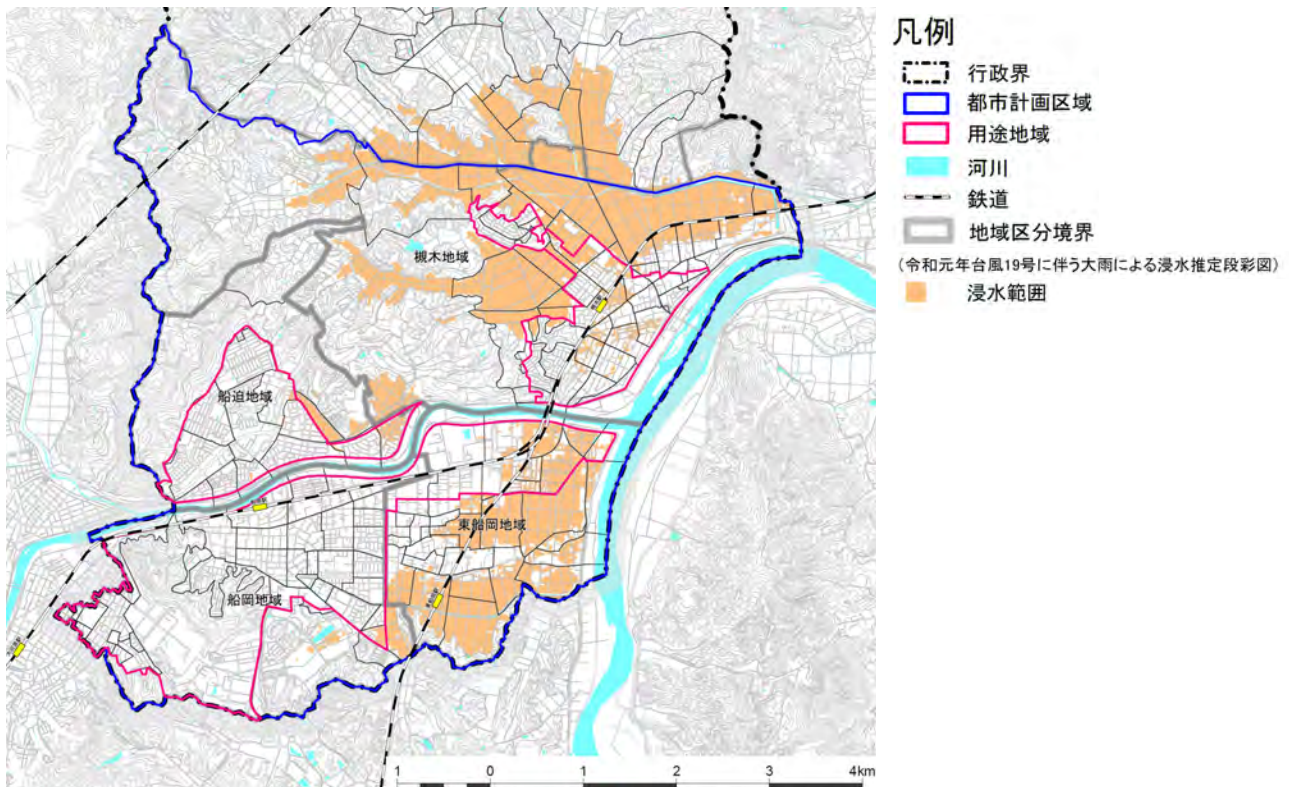
## ウ) 過去の台風による浸水エリア

昭和 61 年以降の台風による浸水被害のあった箇所を見ると、概ね、洪水想定浸水深 3.0m 以上の区域と重なるように分布しています。

■ R 1 台風 19 号による浸水箇所図

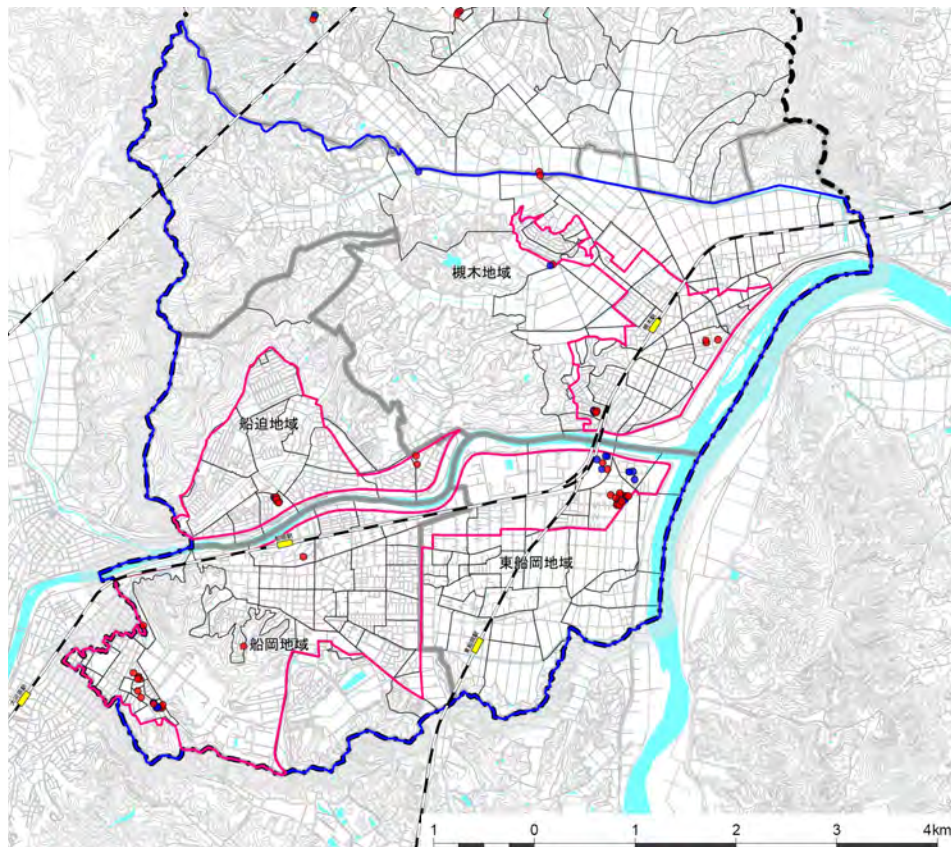


■ R 1 台風 19 号による浸水範囲図





■H27 台風 17・18 号による浸水箇所図



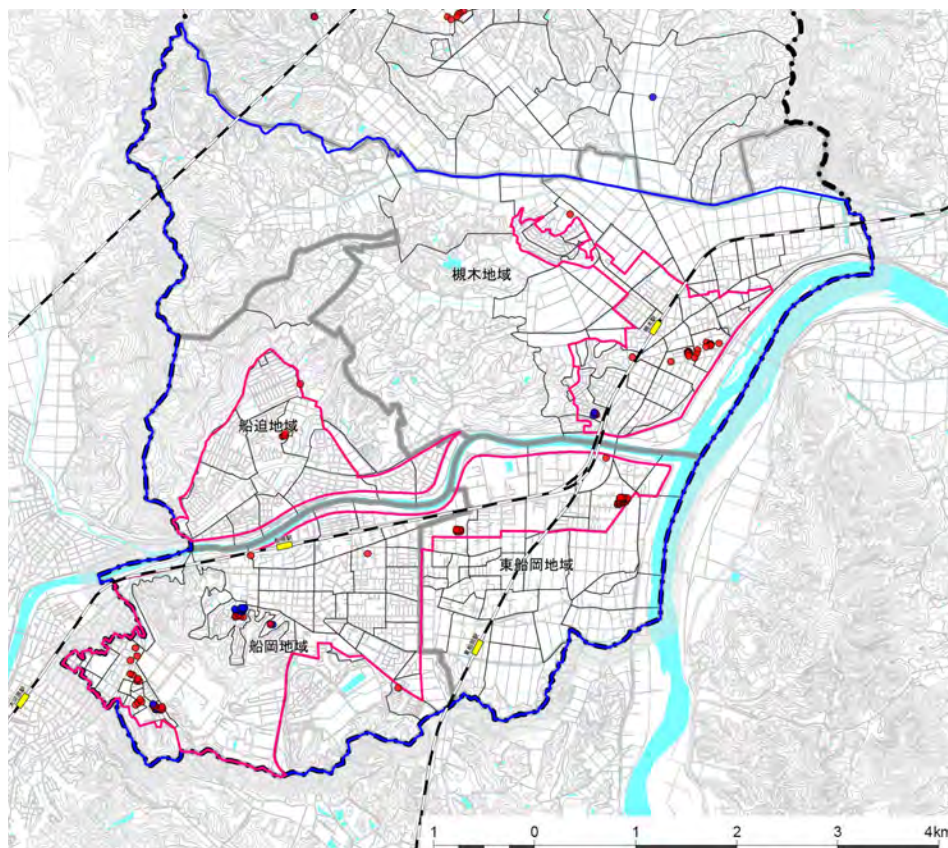
凡例

- 行政界
- 都市計画区域
- 用途地域
- 河川
- 鉄道
- 地域区分境界

(H27(2015) 台風17・18号浸水世帯)

- 床上浸水
- 床下浸水
- 半壊

■H23 台風 15 号による浸水箇所



凡例

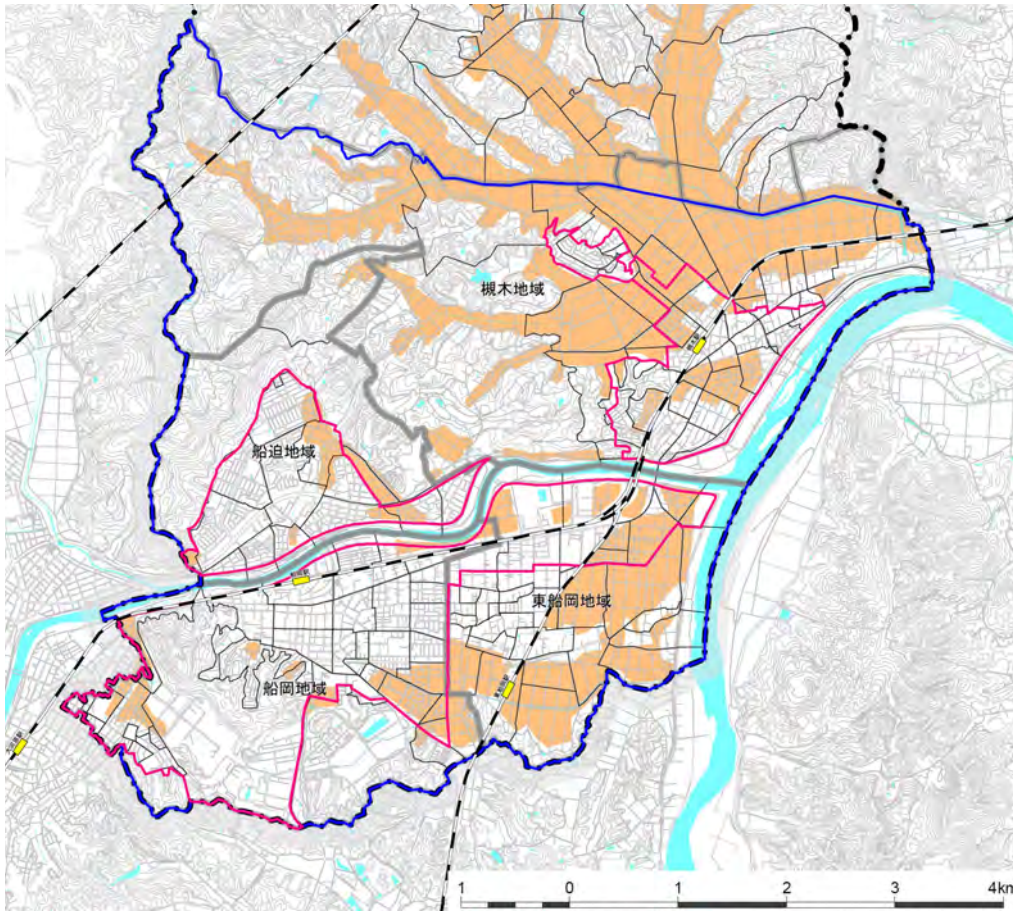
- 行政界
- 都市計画区域
- 用途地域
- 河川
- 鉄道
- 地域区分境界

(H23(2011) 台風15号浸水世帯)

- 床上浸水
- 床下浸水



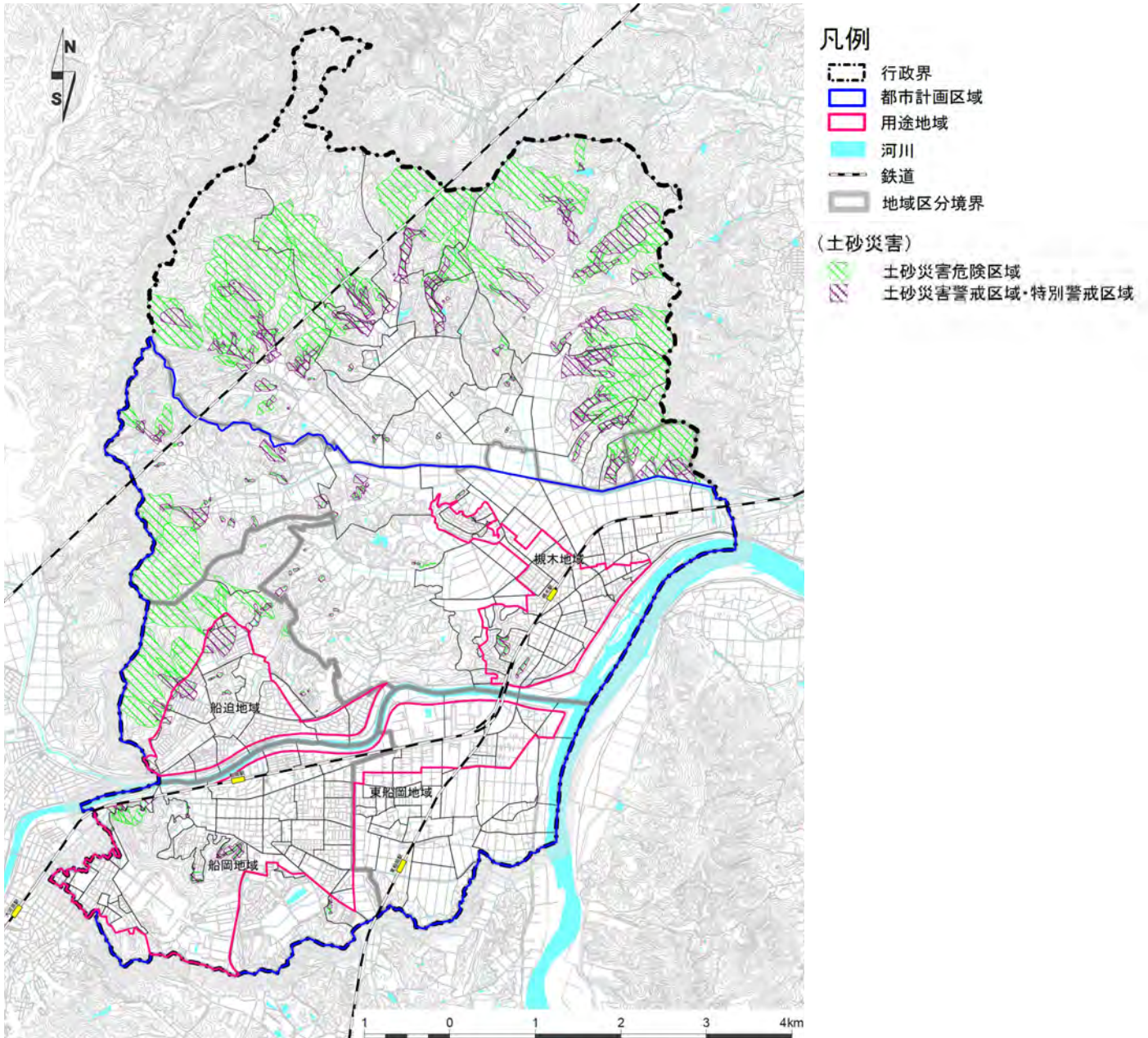
■ S61 8.5 豪雨(台風10号)による冠水被害エリア



## ② 土砂災害

本町では、土砂災害危険区域と土砂災害警戒区域・特別警戒区域があります。市街地との重なり状況を見ると、船迫地域の住宅団地で土砂災害警戒区域が重なっています。

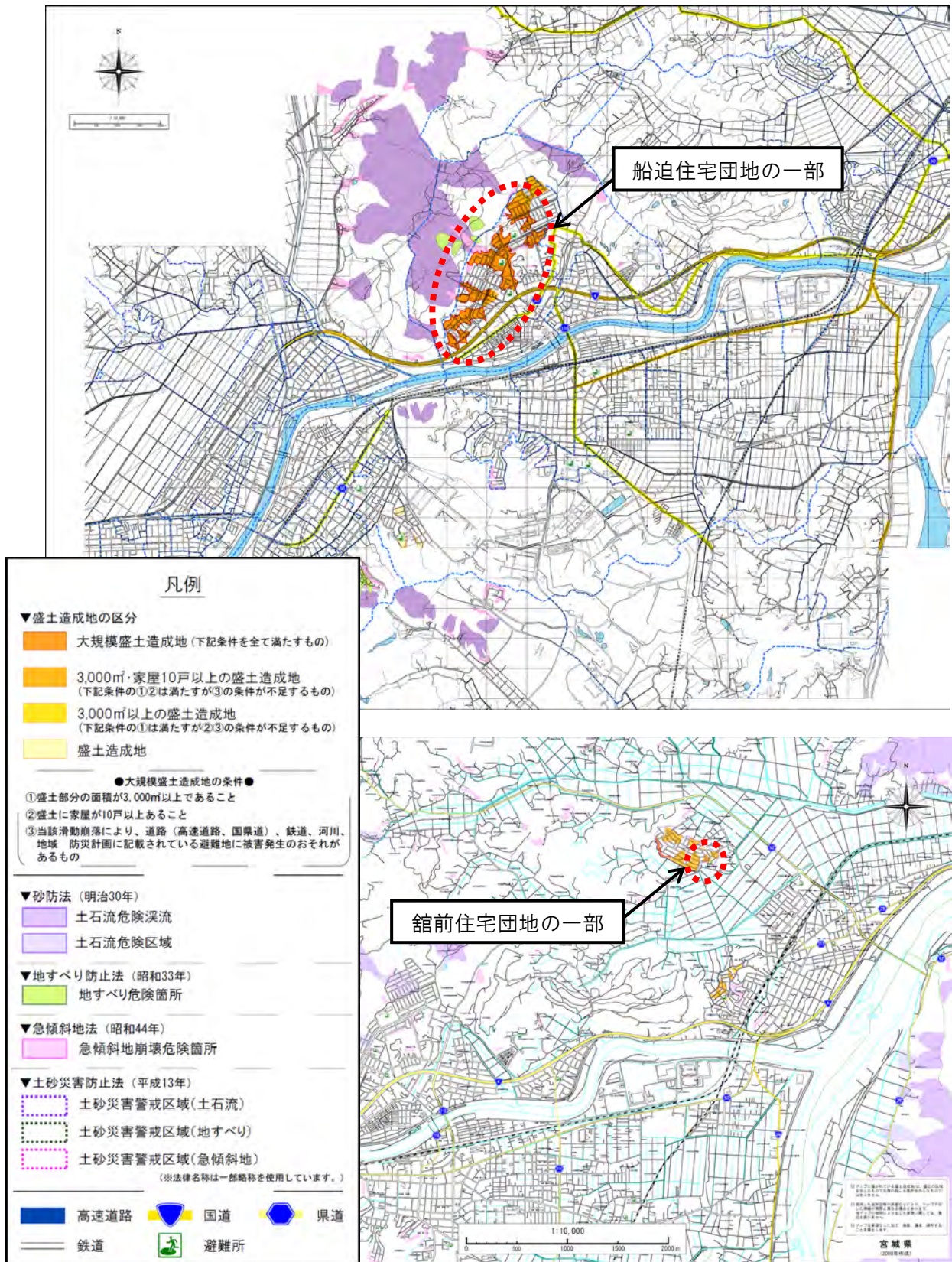
■土砂災害の指定状況





### ③ 大規模盛土造成地

本町では、船迫地区や館前地区の住宅団地造成事業地の一部が大規模盛土造成地に該当します。





## (8) 財政

### ① 歳入

町税の主たる納税者となる生産年齢人口の減少が予想されていることから、今後、町税の減少が懸念されます。

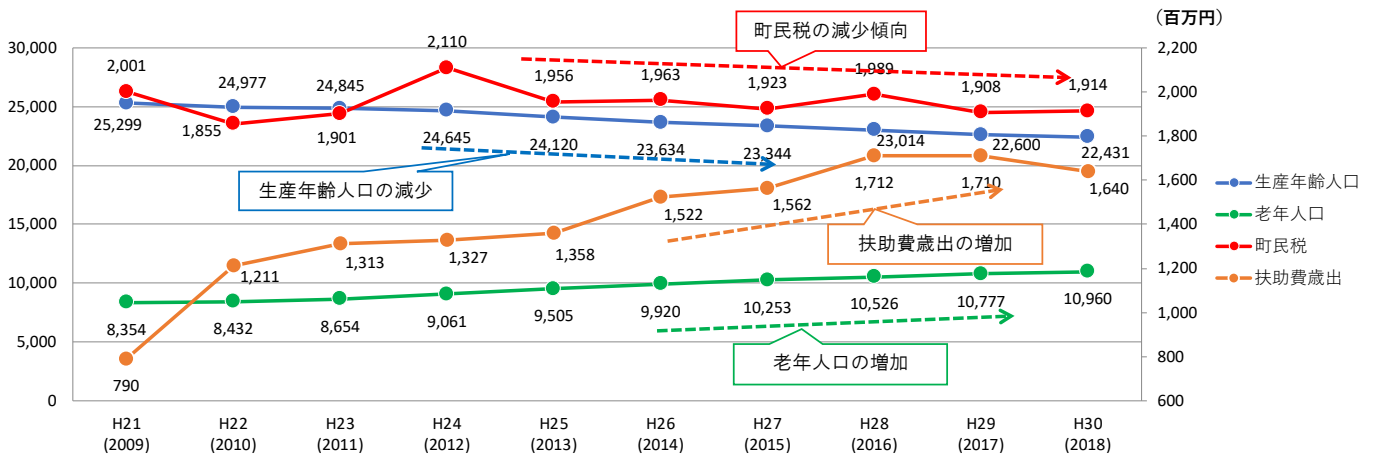
### ② 歳出

今後、高齢社会の進行に伴い、扶助費の増加が見込まれます。

公共施設等の整備にかかる普通建設費は平成30年では18億円、維持費は0.8億円で歳出全体の14.5%を占めています。

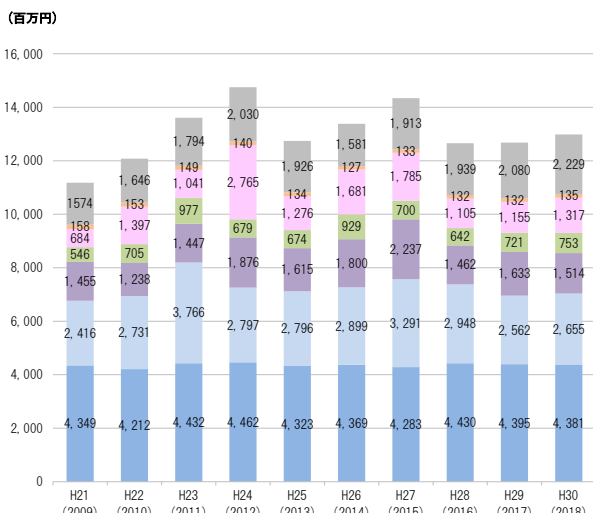
今後、扶助費の増加に伴い、これに充当できる財源の確保はますます厳しくなることが見込まれます。

■町民税と生産年齢人口・老年人口と扶助費の推移(百万円)

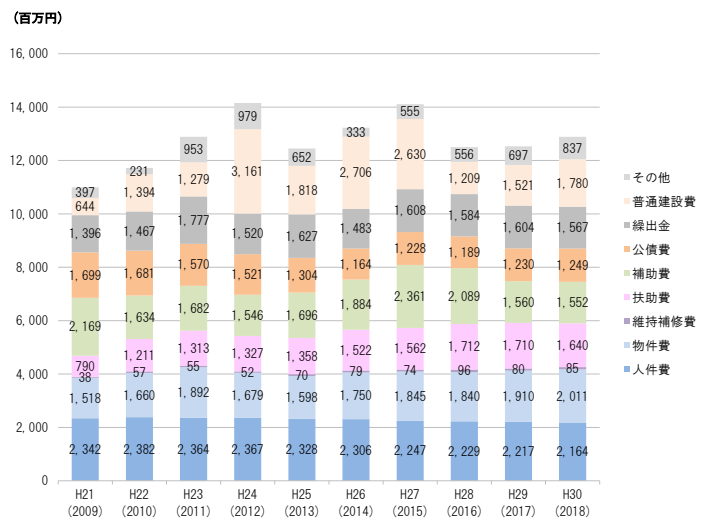


資料：柴田町資料

■歳入の推移(百万円)



■歳出の推移(百万円)



※小数点第1位を四捨五入しているため、合計等が合わない場合がある。

資料：柴田町資料

## (9) 広域的な比較

柴田町の特性や強み・弱みを分析するため、以下の主要な指標について県内市町との比較を行いました。比較する指標については、国土交通省が公表している「都市モニタリングシート」に掲載されている指標のうち、各種施設利便性に関連する指標以外の指標から設定しました。

(「都市モニタリングシート」の利便性に関連する指標は、GIS上で概略算出されたもの、又は統計調査から算出されたものであり、ミクロ分析で詳細に分析した利便性評価結果と一致しないため、ここでは比較の対象としないこととしました。)

### ■比較する主要指標

区分	指標	備考
人口 集積	総人口(行政人口)(2015)	2015年国勢調査
	総人口増減率(2015/2005)	〃
	昼夜間比率(2015)	〃
	将来人口増減率(2035/2015)	国立社会保障・人口問題研究所
交通	1人あたり乗用車保有台数	東北運輸局公表データ
	公共交通の機関分担率(通勤通学)	2010年国勢調査
	一人当たり小型車走行台キロ	2015年交通センサス、2015年国勢調査
	市民一人当たりの自動車CO2排出量	〃
基盤 整備	歩道設置率	2010年交通センサス
	都市計画道路整備率	2015年都市計画年報
	都市計画区域人口当たり公園面積	〃
経済	下水道整備率(排水区域)	〃
	農業算出額/経営体数	2015年農林業センサス、市町村別農業算出額(推計)
	製造品出荷額等/製造業従業者数	2014年経済センサス
地価・ 空き家	商品販売額(小売)/小売売場面積	2014年商業統計確報
	住宅地地価(平均)	2015年地価公示・都道府県地価調査
	商業地地価(平均)	〃
財政	空き家率	2013年住宅・土地統計調査
	1人あたり歳入額	2015年市町村別決算状況調
	1人あたり歳出額	〃
	財政力指数	2015年地方財政状況調書

### ① 県内都市との比較

ここでは、県内における柴田町の特性を把握するため、主要指標について柴田町と県内の全都市の平均との比較を行いました。

人口に関しては、実績・将来ともに県内では減少率が小さいグループに属しています。本町は昼夜間比率が低く、通勤通学の面で周辺市町村への流出超過状態となっています。

公共交通に関しては、県内都市の中では通勤通学における公共交通の分担率が高く、自家用車の所有・利用とも少ない水準となっています。

基盤整備に関しては、都市計画道路の整備水準は県内の平均より高いですが、公共下水道の整備水準は県内平均よりも低く、都市計画区域内人口あたり公園の面積も小さい状況になっています。

経済に関しては、商業と工業の生産効率・販売効率は県内の平均並みの水準となっていますが、農業の生産効率が低い水準となっています。

地価に関しては、住宅地は県内の平均を上回っていますが、商業地は県内平均を下回っています。空き家率は、県内平均と同程度の水準となっています。

財政に関しては、一人あたりの歳入、歳出が小さい財政構造となっており、財政力指数は

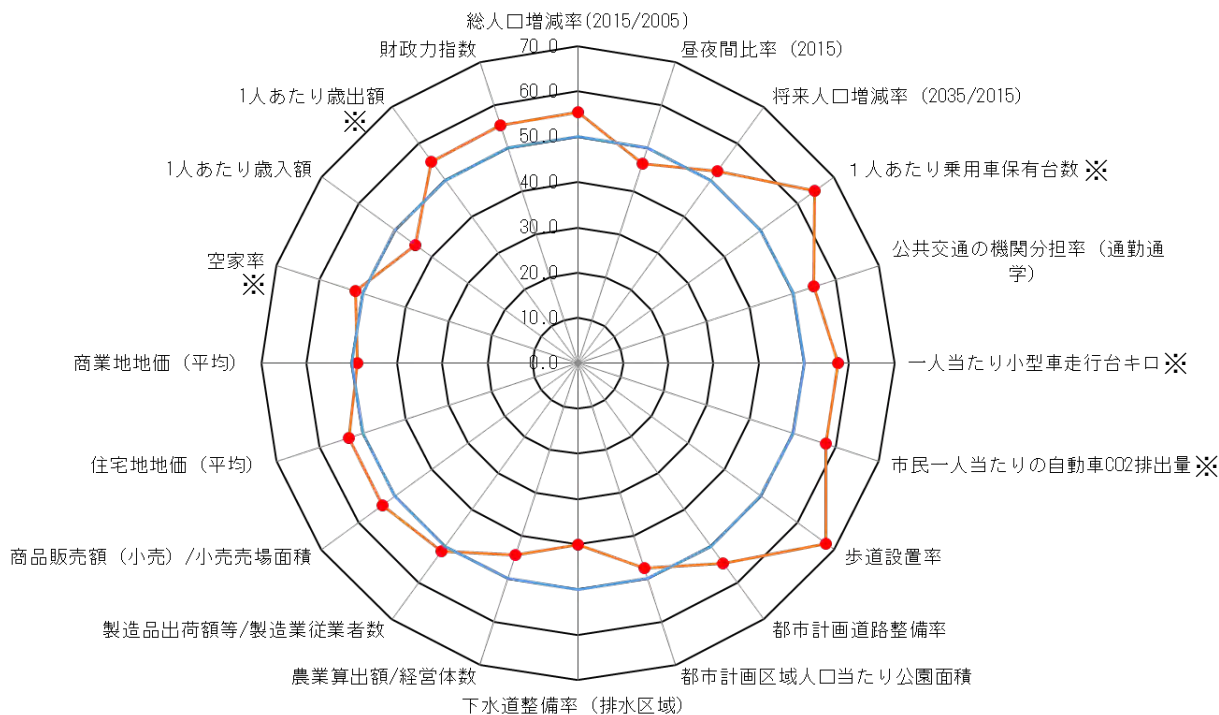
県内平均より高い水準となっています。

### ■県内都市との比較

区分	項目	単位	柴田町		県内都市		備考
			実績値	偏差値	平均値	標準偏差	
人口集積	総人口（行政人口）（2015）	人	39,525	48.5	66,683	177,296.6	
	総人口増減率（2015/2005）	%	99.3	55.4	92.4	12.7	
	昼夜間比率（2015）		0.91	46.4	0.97	0.2	
	将来人口増減率（2035/2015）	%	80.4	52.4	77.5	12.2	
交通	1人あたり乗用車保有台数	台/人	0.33	64.7	0.36	0.0	※
	公共交通の機関分担率（通勤通学）	%	15.6	54.8	12.4	6.7	
	一人当たり小型車走行台キロ	台キロ/人	10.2	57.6	21.1	14.4	※
	市民一人当たりの自動車CO2排出量	t-CO2/年	0.9	57.6	1.8	1.2	※
	歩道設置率	%	88.8	67.9	57.8	17.3	
	基盤整備	都市計画道路整備率	%	50.6	54.7	39.9	22.5
都市計画区域人口当たり公園面積		m <sup>2</sup> /人	7.5	47.7	23.1	67.7	
下水道整備率（排水区域）		%	59.0	40.0	73.8	14.9	
経済	農業算出額/経営体数	万円/所	230	44.6	495	487.4	
	製造品出荷額等/製造業従業者数	万円/人	3,094	51.3	2,914	1,374.8	
	商品販売額（小売）/小売売場面積	万円/m <sup>2</sup>	87	53.3	79	24.6	
地価・空き家	住宅地地価（平均）	円/m <sup>2</sup>	28,760	53.3	23,787	15,180.1	
	商業地地価（平均）	円/m <sup>2</sup>	33,750	48.7	41,578	58,223.4	
	空家率	%	4.4	51.7	4.8	2.1	※
財政	1人あたり歳入額	千円	362.8	44.4	1,280.3	1,646.7	
	1人あたり歳出額	千円	357.0	55.0	1,140.8	1,557.0	※
	財政力指数		0.62	55.3	0.52	0.2	

※値が低いほど偏差値が高くなるように計算値を調整

### ■県内都市との比較（偏差値）



注)偏差値：偏差値は平均値を 50 としたとき、対象の値が全体の中でどれくらいの位置にいるか示した値。平均値では 50、平均値より高ければ 50 より大きく、低ければ 50 より小さくなる。  
 県内都市の比較表の※の項目は、値が低いほど、評価の高まる内容のため、値が低いほど偏差値が高くなるように調整している。